

平成 2 2 年 度

各 地 方 向 け

地 域 放 送 番 組 編 集 計 画

目 次

平成22年度	関東甲信越地方向け地域放送番組編集計画	．．．．．	1
平成22年度	近畿地方向け地域放送番組編集計画	．．．．．	16
平成22年度	中部地方向け地域放送番組編集計画	．．．．．	27
平成22年度	中国地方向け地域放送番組編集計画	．．．．．	44
平成22年度	九州地方向け地域放送番組編集計画	．．．．．	54
平成22年度	東北地方向け地域放送番組編集計画	．．．．．	69
平成22年度	北海道地方向け地域放送番組編集計画	．．．．．	84
平成22年度	四国地方向け地域放送番組編集計画	．．．．．	92

平成22年度 関東甲信越地方向け地域放送番組編集計画

《基本方針》

政権交代によるさまざまな変化、経済危機、世界的な環境問題などが、関東甲信越地方の4700万人の暮らしに大きな影響を与えています。相次ぐ凶悪・巧妙な犯罪、新型インフルエンザ、社会の高齢化、自然災害など、多くの人々が不安を感じています。

首都圏放送センターと関東甲信越の9つの放送局は、“たよりになる”“身近な”公共放送として、放送を通して地域の安心・安全を守り、暮らしを豊かにするために全力をあげます。そのために、地域の人々とともに地域の課題と真正面から向き合い解決策を探る報道・番組に力を入れるとともに、災害報道をいっそう強化します。また、各地の豊かな自然や文化、人々の営みを見つめ、関東甲信越各地の魅力を全国に発信していきます。

さらに、放送に加えてパソコンや携帯端末などを通じて、暮らしに役立つ地域情報のサービスを充実させ“いつでも、どこでも、もっと身近にNHK”を実現していきます。

《重点事項》

1. 地域の課題解決や暮らしに役立つ放送

地域が抱えるさまざまな課題に対し、地域の人々とともに解決策を考えるニュース・番組を発信します。地域や暮らしに大きな影響を与えかねない“埋もれた問題”“見過ごされている危険”を発掘する調査報道も強化します。

2. 災害報道のいっそうの充実

国民の命を守る公共放送として、災害報道に引き続き力を入れます。交通情報など暮らしへの影響について、きめ細かく情報を伝えます。

3. 正確・迅速な選挙報道

政治の動きが人々の暮らしに直結します。視聴者の関心に応え、第22回参议院議員通常選挙(任期満了日 平成22年7月25日)では、争点や地域への影響などをわかりやすく伝えるとともに、結果を正確・迅速に放送します。

4. 地域の魅力・活力を全国に発信

関東甲信越各地には多様で豊かな自然や文化、暮らしがあります。地域の振興のためのさまざまなユニークな取り組みもあります。こうした各地の魅力や活力を、NHKのネットワークを活用して全国に・また世界に発信して地域を応援します。

5. 幅広い視聴者に親しまれる番組

視聴者の多様な関心や期待に応え、地域ごとに独自性を発揮しながら、暮らしに役立つ情報や、心を豊かにする話題などを多彩な形で提供し、幅広い視聴者に親しまれるよう努めます。

6. 多様なメディアに向けたサービスの展開

地域や暮らしに役立つ情報を、放送に加え、インターネット・携帯端末向けサービスなど、メディアの特性を生かしながら伝えます。

《各局の重点事項》

東京・本部

- 国政はもとより、地球的な経済危機、環境問題などグローバルな動きが首都圏1都6県に暮らす4200万人の生活に直接影響を及ぼします。地球規模の問題にも目を配りながら、人々の暮らしに寄り添い、関東甲信越の安心・安全につながる情報を、わかりやすく迅速に伝えていきます。
- 年金・医療・格差など日本社会が抱える課題やひずみを積極的に取り上げ、生活者の目線で伝えていきます。調査報道やキャンペーンにいっそう力を入れ、地域や暮らしの安心・安全につながるニュース・番組を展開し、地域が元気になる放送を目指します。
- 首都圏直下地震や“ゲリラ豪雨”など都市型災害の被害を防ぐ、防災・減災報道を強化します。
- 政権交代後初の大型国政選挙となる第22回参议院議員通常選挙の報道に全力を上げ、正確・迅速に放送します。また、平成23年度には東京都知事選挙（任期満了日 平成23年4月22日）を始めとする統一地方選挙もあり、万全の準備で臨みます。
- 首都圏には、政治・経済の面でも、ライフスタイルの面でも、多くの先端的な動きが集中すると同時に、各地には多様な文化・暮らしがあります。こうしたさまざまな動きや情報をネットワークを生かして全国に発信していきます。
- データ放送、インターネット、携帯端末などさまざまなメディアを通じた情報の発信にいっそう力を入れ、ニュース・番組と連動したきめ細かい情報を提供します。
- 中継キャラバンや番組に連動した「ふれあいミーティング」などを通じて、視聴者との回路を広げ、視聴者の声を放送に反映します。

横浜放送局

- 11月の新放送会館オープンを契機に、神奈川の新たな情報発信基地としてさらに存在感をアピールします。年度当初から午後6時台のFM県域放送を刷新し、内容を充実させるとともに、新会館からの公開生放送や記念イベントを効果的に配置し、多様な視聴者とのふれあいを深めます。
- 夏の第22回参議院議員通常選挙に向けて万全の準備を進め、選挙の争点や構図を分かりやすく伝えるとともに、開票速報では、県内の選挙結果を正確・迅速に報道します。
- 4月の県の受動喫煙防止条例施行と相模原市の政令指定都市移行、5月の「第61回全国植樹祭」、11月のAPEC（アジア太平洋経済協力会議）首脳会議開催など、地域のさまざまな動きに向き合い、ニュースや番組などで情報を発信するとともに、地域のさらなる発展に向けた課題を多角的に伝えます。
- 神奈川県西部地震・東海地震などが起きた場合に予想される被害や、台風・大雨などの風水害、さらに世界的な流行が続いている新型インフルエンザから県民の安全と暮らしを守るため、防災・減災に役立つ情報を積極的に発信します。
- 基地問題について、鳩山政権発足後の在日アメリカ軍再編の新たな動きや横須賀基地に配備されている原子力空母の動向などを、自治体の対応や住民の思いとあわせてきめ細かく伝えます。
- 今年から日本で唯一、サッカーJ1で3チームを擁することになった神奈川県。午後6時台のFM県域放送で、チーム情報や選手へのインタビューなどを随時特集して伝えます。また3チーム間の対戦をFM放送で適宜中継することで、県内スポーツファンのニーズに応え、サービスの充実をはかります。

前橋放送局

- 前橋放送局は、群馬県域地上デジタル放送の開始を平成23年に控え、視聴者ニーズに応える新しい地域放送サービスの創造と取材・制作体制の整備に取り組みます。あわせて、群馬の放送文化をけん引し、県民・視聴者にニュースや番組を通じてさまざまな情報を伝えるとともに、全国に向けた群馬の情報発信基地の役割を引き続き果たしていきます。
- 県民の生命・財産を守るため、地震や風水害・雪害などの緊急・災害報道に全力で取り組みます。浅間山と草津白根山の火山活動への不断の警戒を続けるとともにきめ細かい防災情報の提供に努めます。また、事故発生から25年の節目を迎える日航ジャンボ機の墜落事故のその後を検証します。
- 平成22年度は、第22回参議院議員通常選挙のほか、富岡市や安中市の市長選挙など8つの市町村長選挙が予定されています。一連の選挙に万全の体制で臨み、正確・迅速でわかりやすい選挙報道に努めます。
- 建設中止か推進かで揺れるハッ場ダムを巡る動きを丹念に追うなど、政権交代が群馬の政治風土や有権者の意識にどのような変化をもたらしていくのかを継続的に取材し、群馬のこれからを視聴者とともに考えます。
- 平成22年3月から群馬大学で開始予定の重粒子線治療、10月開催予定の「第34回全国育樹祭」など地域の動向をきめ細かく伝えます。また、基幹産業の農業や観光などを積極的に取り上げ、地域活性化に資する情報発信に努めます。一方、不況が県の経済に投げかける波紋や県東部に多い外国人労働者の問題など、地域の課題に正面から向き合ったニュース・番組を制作します。
- 豊かな文化や雄大な自然など、群馬の魅力を首都圏や全国に向けて積極的に伝えるレポートや番組の制作に力を入れます。また、FM県域放送のいっそうの充実を努めます。文化・スポーツをはじめ県内の各界各層のキーパーソンにインタビューする番組を新設するほか、平日午後6時台の生活情報番組については原則生放送とし、ニュース・気象情報のほか、イベントや文化など身近で多彩な情報をきめ細かく伝えます。
- サッカーJ2の「ザスパ草津」について、北関東3県のチームが対戦する“北関東ダービー”を中心に積極的に取り上げ、地元チームを応援する機運を高めるサービスを提供します。また、プロ野球・独立リーグの「群馬ダイヤモンドペガサス」やソフトボール、ラグビー、高校野球など、県民の関心が高いスポーツ情報を提供します。

水戸放送局

- 水戸放送局が、茨城県域地上デジタル放送を始めて丸5年がたちました。地上テレビ放送の完全デジタル化まで1年余りとなった22年度を、県域放送の新たなスタートの年と位置づけ、より身近な放送局を目指して、放送サービスのいっそうの充実を図ります。
- 平日の午前11時台と午後6時台の情報番組の内容充実に努めます。午前11時台は、視聴者参加の公開放送を継続し、暮らしに密着した情報を中心に、地域の応援を第一に考えた番組を目指します。午後6時台は、視聴者の関心の高い出来事や話題を、徹底した取材で、わかりやすく伝えます。また、討論や視聴者参加の手法も取り入れ、地域が直面する課題に正面から向き合うスペシャル番組を月1回程度放送します。
- 地震や台風といった自然災害や原発事故の発生など緊急報道に対しての備えをいっしょから整えておくとともに、防災・減災に役立つ情報を継続して伝え、県民の安全や暮らしを守る公共放送としての使命と責任を果たします。
- 第22回参議院議員通常選挙と茨城県議会議員選挙（任期満了日 平成23年1月7日）が行われます。万全の体制を整え、争点や地域の課題をわかりやすく伝えるとともに、選挙結果を正確・迅速に報道します。
- 医療や福祉、雇用など暮らしをめぐる状況は厳しさを増す一方です。茨城県が目指す「生活大県」づくりの取り組みを検証するとともに、茨城空港の開港や高速道路の整備を、今後の茨城県の発展にどう結び付けていくのか、地場産業の振興や街の活性化など地域経済の問題とあわせて、多角的に取材を進めていきます。
- サッカーJ1で史上初の3連覇を成し遂げた「鹿島アントラーズ」やJ1昇格を目指す「水戸ホーリーホック」の戦いぶりを中継や情報番組の中でいっしょに伝えます。また、高校野球や大相撲をはじめさまざまなスポーツでの県勢の活躍を紹介し、スポーツの振興に貢献します。
- 茨城県は全国有数の映画のロケ地として知られ、この秋には、県民の呼びかけで制作が始まった映画の公開も予定されています。こうした県民が主体となった活性化の取り組みを内外に発信し、地域を応援する放送局を目指します。また、小澤征爾氏が音楽顧問を務める水戸室内管弦楽団の演奏会をはじめ、歴史や文化など多彩な分野で、NHKならではの質の高い番組を制作します。
- 平成23年に、前橋放送局と宇都宮放送局でもそれぞれ県域地上デジタル放送が始まります。北関東という地域のつながりの中で、放送を通じた協力を深め、番組づくりに生かしていきます。

千葉放送局

- 構造的な不況の長期化や格差社会の深刻化による、地域社会の変容や新たな課題をいち早く伝えていきます。民主党政権下で政治が大きく変わろうとしている中、千葉県のくらしに密接なテーマに沿ってさまざまな政策を検証していきます。また、第22回参議院議員通常選挙に向けて準備を整え、正確・迅速な報道にあたります。
- 裁判員裁判がスタートし、刑の重さや社会復帰のあり方などの議論が再燃する中、千葉県で起きた事件を掘り下げて取材し、再犯防止や社会の安全など多角的に報道していきます。
- 羽田空港やアジアの巨大空港の拡張、さらには国際線の規制緩和の影響で、成田空港が大きな戦略転換を求められる中、利用者の視点から、空港を取り巻くさまざまなニュースを発信していきます。
- 台風や“ゲリラ豪雨”による水害、突風、地震などの災害時に、地域住民の生命や財産を守るため、取材と報道に全力を尽くします。
- 千葉県で37年ぶりに開催される「ゆめ半島千葉国体」については、開会式や注目の競技を全国に発信し、スポーツ普及に貢献します。
- 崩壊の危機と言われる地域医療の取材に取り組みます。診療休止に追い込まれた銚子市立病院の再開への動きなど、現状を多角的に取材し、番組を制作し、地域医療再生の方策を探ります。
- FM県域放送では、県内で活躍する人たちへのインタビューや、「千葉国体」の情報など、地域に密着した情報を取り上げます。また、スタジオや県内各地で公開放送を実施し、視聴者に親しまれる放送を目指します。
- 千葉放送局のホームページで、最新の千葉県のニュースを動画で提供するほか、千葉局制作の動画リポートを掲載し、インターネットを活用した地域情報の発信を強化します。また、携帯サイトを充実して若い世代にアプローチし、NHKへの接触者率向上に努めます。
- 公開番組などを通じて良質の娯楽を広く県民に提供するほか、地域の文化や課題をテーマにしたイベントを企画実施するとともに、これまでNHKへの接触が少なかった世代への取り組みを強化していきます。

宇都宮放送局

- 「地域の応援団」として県民が豊かに安心して暮らせる手助けとなる番組作りに全力をあげます。栃木県の豊かな自然や文化、産物を全国に発信するとともに地域の課題を掘り下げて伝え、栃木の知名度向上に努めます。
- 平成23年、県域地上デジタル放送サービスを開始します。視聴者に満足してもらえる県域放送の実現に向けて、放送内容の検討や体制整備など準備に万全を期します。
- 今年度は第22回参議院議員通常選挙をはじめ、日光市長選挙（平成22年4月11日投票）や、1市3町が合併する新しい栃木市の市長選挙（平成22年4月25日投票）などが行われます。選挙の争点や構図を分かりやすく伝えるとともに、正確で迅速な選挙報道に取り組みます。
- 台風や地震等の災害報道に全力を尽くします。緊急報道体制の整備に万全を期すと同時に、データ放送などによるきめ細かい情報提供に努めます。
- 平成17年に旧今市市で起きた女子児童殺害事件など、県民の生活を脅かす事件や事故のニュースを迅速に報道し、背景や防止策を伝えます。
- 長引く景気低迷により、大規模な工業団地を抱える栃木県の経済にもさまざまな影響が出ています。問題点を継続的に取材し、解決の糸口を探ります。
- 農業の話題を多角的にとりあげます。生産量日本一のいちごなど特産品を広く紹介するとともに、農業をめぐる課題をテーマとした番組を発信します。
- 県内のスポーツの話題を積極的に取材します。サッカーJ2の「栃木SC」をはじめ、バスケットボールやアイスホッケーのプロチームの情報を随時放送で取り上げ、スポーツファンの期待に応えます。
- FM県域放送の内容をよりいっそう充実させます。昨年度新設した公開生放送番組「とちぎマロニエパーク」などを通して聴取者との結びつきを深め、地域の皆さんに親しまれる放送局をめざします。

さいたま放送局

- FM番組を刷新し、夕方の時間帯に県域放送を集中編成します。
自宅ではっと一息つきながら、夕飯の支度をしながら、あるいは帰宅途中の車の中で、放送を楽しんでもらえるよう、月曜日から木曜日の午後6時台に、新たな情報番組を設けます。埼玉にゆかりのあるさまざまな人たちをゲストに迎え、生活の知恵や埼玉を楽しむ方法などを伝えるとともに、思い出の音楽で、埼玉県を元気にします。
- 県民の高い関心に応えるため、サッカー番組を拡充します。
FM放送で金曜日に放送している「週刊☆サッカー王国」を、現在の30分から50分に拡大し、午後6時から放送します。「浦和レッズ」と「大宮アルディージャ」を応援する投稿メールを軸に、解説者も増やし、両チームをはじめサッカーに関する情報をきめ細かく発信します。また、両チームが対戦する“さいたまダービー”をFM放送で中継します。
- 埼玉県が抱える課題や地域話題を掘り起こし、首都圏や全国にニュースや番組を発信します。埼玉の魅力を広く伝える一方で、課題をともに解決する道を探ることで、地域貢献を果たします。
- 放送と連動してホームページを活用し、接触者率の向上に努めます。
ホームページは県域テレビ波を持たない局にとって有用なチャンネルです。引き続き、ニュース動画と番組情報を提供していくほか、FM番組で好評を得たコーナーや情報の音声データ、写真・動画をホームページに掲載し、視聴者の期待に応えるコンテンツを充実させていきます。
- 選挙報道に万全を期します。
民主党政権が誕生した中で、夏に行われる第22回参议院議員通常選挙は、これまで以上に、視聴者の注目を集めるものと見られます。どのような構図になるのか立候補者の顔ぶれからていねいに取材を進め、きめ細かな情勢取材と入念な準備によって、視聴者の期待に応える選挙報道を実施します。平成22年度に県内で予定されている9つの市長選挙についても、正確に伝えます。
- 「国民の生命・財産を守る」という災害報道の使命を確実に果たします。
埼玉県では、去年10月、台風18号に伴う強風で3人が死亡したほか、過去にはいわゆるゲリラ豪雨による被害も起きています。国土交通省関東地方整備局と各地の河川の生の映像を放送で利用する方法について協議するなど、関係機関との情報交換を密にして災害報道を迅速に行えるよう日ごろから準備を進めます。

長野放送局

- 地域のニュースをいち早く正確に伝えます。長引く不況が地域の暮らしを脅かしています。製造業の低迷や観光客の減少傾向など長野県が直面する課題や、人口減少と高齢化が進行する中で起きている地域医療や公共交通の危機、農林業の鳥獣被害など、暮らしに直結する問題をきめ細かく取材し、掘り下げて視聴者に伝えます。
- 毎日の暮らしの安全・安心を届ける情報に力を入れるとともに、災害への備えを進めます。長野県では、東南海地震や活断層による直下型地震、風水害、浅間山を始めとした火山活動への警戒が必要です。災害報道の準備を進め、いざという時に地域住民の命と暮らしを守る公共放送の役割をしっかりと果たします。
- 夕方6時台のニュース番組では、その日のニュースをわかりやすく伝え、特に大切なニュースについては、レポートや記者解説などで掘り下げます。地域のスポーツ情報を充実し、県内のケーブルテレビ局や視聴者とのネットワークにより、きめ細かな地域の情報を発信するとともに、キャスターが現地から伝える公開放送「つながるスタジオ」を実施し、視聴者にいっそう身近で親しまれる放送サービスに取り組みます。
- 金曜夜8時台の「知るしん。～信州を知るテレビ～」を中心に、地域の課題や新しい動きを伝えます。地方空港や地域の公共交通の問題など、長野県域だけにとどまらない課題については、関係する放送局と連携した取材により解決策を探ります。また、金曜夜間は長野県の視聴者に向けた時間として、信州の自然や文化、暮らしや人々を見つめる番組も放送します。
- 長野県の豊かな自然や文化の魅力を全国に発信し、地域の振興と文化の継承に寄与します。平成22年春には、1200年以上の歴史を誇る諏訪大社の御柱祭が平成16年以来、6年ぶりに行われます。この伝統の祭りを高画質高音質の衛星デジタルハイビジョンなどで長時間生中継するほか、多角的な取材で全国に発信して地域に貢献します。
- 政権交代後、初めての国政選挙となる第22回参議院議員通常選挙と長野県知事選挙（任期満了日 平成22年8月31日）が行われます。各自治体の首長選挙などとあわせて選挙報道に万全を期します。正確かつ迅速な開票速報を行い、選挙の争点・候補者の主張をわかりやすく伝え、県民の関心に応えていくとともに政治の大きな節目をしっかりととらえ、地域に伝えていきます。

- 今シーズンから日本フットボールリーグに初めて参戦する「松本山雅フットボールクラブ」が、県民の関心を集めています。ホーム開幕戦の生中継のほか、シーズン中の試合結果・選手情報を詳しく伝えて県民の期待に応えます。また、市民ランナー8500人が参加する「第12回長野オリンピック記念長野マラソン」を全国に放送するほか、プロ野球独立リーグ・BCリーグ「信濃グランセローズ」の試合や、県内屈指の難しいコースに小学生が挑む「小学生アルペン」など、地域の多彩なスポーツを取り上げ応援します。
- 長野放送局は平成23年3月、放送開始80周年を迎えます。特集番組と多彩なイベントの実施により、地域に密着した放送局としての存在感を高めます。また、地上テレビ放送の完全デジタル移行の年にあたり、視聴者への理解をいっそう深める放送に取り組みます。
- 地域の視聴者に関かれた番組作りを進めます。平日午前11時台の情報番組「ひるとくテレビプラザN」は、放送会館での公開放送を行います。“安全”“安心”“快適”な生活のヒントとなる情報を提供するほか、県内各市町村の人々がスタジオで各地の“旬”の産物や話題を紹介する企画などで、地域のみなさんと一体となった番組作りを進めます。
- ラジオ第1放送の朝の時間帯は一日の始まりにふさわしい最新のニュースと気象・交通情報を「もぎたて信州朝いちばん」を中心に伝えます。また、県内各市町村のイベント情報や健康情報、各地の自然を楽しむガイド情報など暮らしに役立つ情報のほか、身近な交通安全についてもわかりやすく伝えます。

新潟放送局

- 新潟県で暮らす人たちが、“見たい”“知りたい”“伝えてほしい”放送を常に心掛けながら、日々のニュース報道や番組づくりを進め、地域の方々からいっそう信頼される放送局を目指します。
- 新潟県の基幹産業である“農業”“観光”を年間の重要なテーマにします。“農業”については、戸別所得補償など今最も知りたい動きをていねいに報道し、頑張っている農家を応援する番組をつくるなど、地域の農業振興につながる放送をします。“観光”については、去年「天地人」で盛り上がった活気を持続させるように、地域と密接に連携してさまざまな取り組みを伝えるとともに、新潟の新たな魅力を首都圏や全国に向けて発信していきます。
- 新潟県中越地震から6年・新潟県中越沖地震から3年、今も地元には地震後の課題が残っています。二度の大きな地震に見舞われた地域の人たちの暮らしに役立つ報道や、元気が出る番組を提供するとともに、震災を風化させないよう常に地域の課題と向き合っています。また、地震だけでなく、水害、雪害、竜巻など、これまでの災害報道の経験を生かして「災害報道に強い放送局」として体制をいっそう充実させるとともに、暮らしに直結する気象情報や交通情報などもきめ細かく速報していきます。データ放送では、県と連携した新たな災害報道システムを導入することで、被災情報や避難場所など災害時のさまざまな情報を提供していきます。
- 大手デパートの撤退による市街地の空洞化、事故が相次ぐ柏崎原発、国との調整が難航する北陸新幹線、深刻な地域医療や山間地の過疎化など、新潟はさまざまな課題に直面しています。午後6時台のニュース番組や金曜夜間の番組を通して、こうした課題に取り組み、“地域の応援団”として問題解決の糸口を見つけ、地域の活性化に貢献していきます。
- 2年前に始まったトキの放鳥は、自然界でのペアリングに向けて、地元新潟だけでなく全国の関心を集めています。トキ成長の様子や繁殖を願う地域の人々の思いを伝えていきます。また、豊かな自然に囲まれた新潟には、世界ジオパークに選ばれた糸魚川、ラムサール条約に登録された瓢湖など、全国に誇れる名勝が数多くあります。各地で自然環境を守る人々の取り組みを紹介していきます。
- 新潟水俣病の未認定問題や北朝鮮による日本人拉致問題など、関係者の長年にわたる苦しみ、悲しみは、問題が解決される日まで癒えることはありません。患者や家族に寄り添って取材を続け、こうした事件が世の中から決して忘れられることがないように伝えていきます。

- 新潟で頑張っている若い人たちを応援していきます。若い農業後継者など、地域の経済を支える人たちを積極的に紹介してきます。また、ラジオ番組などで若者たちが放送に参加し自分たちの思いを発信できるようなイベント型の放送をしていきます。
- 地域のスポーツ振興につながる放送を行っていきます。サッカーJ1の「アルビレックス新潟」をはじめ野球やバスケットボールなど、新潟を拠点とするプロスポーツチームの動向などを詳しく伝え、注目試合を中継します。また、高校野球など県民の関心が高いアマチュアスポーツも、積極的に放送していきます。
- 今年は夏に第22回参議院議員通常選挙、11月には新潟市長選挙（任期満了日 平成22年11月17日）が予定されています。選挙報道においては、正確な情報の発信に努めます。さらに国政や地域行政が、地域の暮らしにどう直結していくのか、生活者の目線で見つめていきます。
- 来年に迫った地上テレビ放送の完全デジタル移行に向けて、県民の方々が知りたい最新の情報を提供していきます。また、デジタル放送の魅力とともに、データ放送などの利用方法もわかりやすく紹介していきます。

甲府放送局

- 長引く景気の低迷、そして過去最低水準の雇用情勢が続き、県民の生活は厳しさを増しています。また、市街地の空洞化、耕作放棄地の増大、慢性的な医師不足といった地域が直面する問題も、具体的な解決策が見いだせないまま、より深刻になっています。こうした課題に真剣に向き合い、“地域再生”をテーマに視聴者とともに地域が元気になる道筋を探っていきます。
- 世界的に喫緊の課題である環境問題。山梨県でも国内有数の日照時間という地の利を生かして、今年度から国内最大級の太陽光発電施設の建設が始まるなど、その取り組みが本格化します。国内の先進地としての山梨県の取り組みを積極的に取材し、環境問題と新産業の創出という2つの視点でさまざまな情報を発信していきます。
- 2年連続で山梨側からの登山者が24万人を超えた富士山は、安全対策や環境保護の問題が顕在化し始めています。ふもとの自治体は、登山者から任意の協力金を集めて、富士山を守っていく方針を打ち出しました。また世界文化遺産の登録に向けた取り組みも“自然美の価値の証明”という新たな課題を提示され、大きな分岐点を迎えています。山梨県が全国に誇る富士山を取り巻く動きをていねいに検証し、次の世代に残す富士山のあり方を考えます。
- 東京と名古屋を40分で結ぶリニア中央新幹線の建設が、いよいよ現実味を帯びてきました。駅の設置場所やルート選定の議論も大詰めを迎え、5兆円に上る超巨大プロジェクトの行方に国民の関心が集まっています。次世代の高速鉄道の建設が、山梨県に何をもたらすのか。地域活性化と自然保護の観点を中心に、リニア建設をめぐる動きを詳しく伝えます。
- いつ起きてもおかしくない東海地震と富士山噴火に備えた防災上の課題を検証します。また台風や大雨などの被害を最小限に抑えるため、行政機関の防災対策を検証するとともに、県民の防災意識の向上に資する放送を充実させます。
- この夏に予定される第22回参議院議員通常選挙のほか、山梨県知事選挙（任期満了日 平成23年2月16日）や甲府市長選挙（任期満了日 平成23年2月1日）では、政権交代による県民生活への影響や県内政界の動きをわかりやすく伝えるとともに、正確・迅速な選挙報道に向けた準備を進め、視聴者の期待に応えます。
- 県内唯一のプロチーム、サッカーJ2の「ヴァンフォーレ甲府」は、新しい監督のもと、去年、あと一步で逃したJ1昇格を改めて目指しています。チームの動向をニュースや中継などを通し詳しく伝えます。また高校サッカーをはじめ、野球、バスケットボールなど盛り上がりを見せるさまざまなスポーツも積極的に取り上げます。

- 平成23年の地上と衛星のテレビ放送の完全デジタル化に向けて、甲府放送局のキャラクター「しんげん君ファミリー」のステージショーを県内各地で実施するとともに、ミニ番組を放送だけでなくインターネットでも配信するなど、デジタル放送の普及推進を図ります。
- ホームページなどで地元スポーツチームへの応援メッセージを募集し、寄せられたメッセージをスポーツ中継時に紹介するほか、携帯サイトを利用したイベントを展開するなど、デジタルメディアを有効に活用し若年層との接触をさらに深めます。
- 「BS日本のうた」「おかあさんといっしょファミリーコンサート」などの大型公開番組を通じ、幅広い年代に向けてNHKに対する理解促進を図ります。また昨年好評であった県立文学館との共催イベント「NHK朗読シアター」を継続実施し、地域に根ざした放送局を目指します。

平成22年度 近畿地方向け地域放送番組編集計画

《基本方針》

平成22年度、関西のNHK6放送局は、“もっと見てもらう、もっとふられてもらう”を意識し、放送を核としてインターネットや携帯端末向けサービス、イベント・広報展開などさまざまな媒体を活用したサービスのさらなる充実に努め、いっそう力強く“放送局のちから”を発揮します。

22年度は、「平成21～23年度 NHK経営計画」の2年目にあたる年であり、接触者率と受信料支払率の向上を目指す取り組みをさらに進めます。高齢者層をはじめとする従来からの視聴者を大切にしつつ、若い世代や社会の中核世代に向けたコンテンツをいっそう充実させて、関西NHKがすべての世代に親しまれるよう努めます。

いまだ続く不況は、回復に向けたはっきりとした道筋が見えない状況です。関西でも過去最悪のペースで企業の倒産が相次ぐなど、厳しい経済情勢が人々の暮らしに大きな影響を及ぼしています。

昨年誕生した新政権は、社会システムの変革に取り組もうとしています。関西の各自治体の間でも、行政の在り方をめぐる活発な動きが見られます。

これからの関西経済はどうなるのか、新政権や各自治体などが取り組む変革は関西をどう変えていくのか、ニュースや番組などで、確かな情報と今後の展望を伝えます。

関西には、日本人のロマンをかき立てる数々の歴史遺産、漫才や落語をはじめとする上方芸能、一級の研究者を輩出してきた学術風土、多くのファンの熱狂を呼ぶさまざまなスポーツシーンなど、独自の風土にはぐくまれた豊かな文化が脈々と息づいています。これら関西特有の“財産”をドキュメンタリーやバラエティー、ドラマなどさまざまな切り口で紹介し、放送サービスのいっそうの充実に努めます。

「平城遷都1300年」の大きな節目に、古代から現在・未来の関西と日本を見通す特集番組やイベントを展開します。また、5月に開幕する「上海国際博覧会」への関心を高める取り組みとともに、中国をはじめとする近隣アジア各国・地域の“いま”を伝え、関西との交流を見つめます。

関西の6放送局は、それぞれが地域と向き合い、視聴者の期待に応えるニュースや番組を届け、地域との結び付きをさらに強めて、いっそう身近に感じてもらえる地域サービスを展開していきます。

《重点事項》

1. 番組ごとの役割を明確にし、視聴者層を拡大

- 若い視聴者層の獲得を目指す独自の挑戦を続けます。3年目に入る平日午後5時台の番組は、過去2年の蓄積を生かしながら、10代・20代の熱い学生たちを応援して元気づけ、若い世代とのつながりを深めていきます。公開生放送を中心に、特集編成やイベント、インターネットや携帯端末向けサービスなど総合的な展開で、若い世代の接触機会をさらに増やしていきます。
- 金曜午後8時台は、多彩なラインナップをそろえて魅力あふれる関西を描きます。関西NHKの核となる番組として、文化や紀行、娯楽、スポーツ、ドキュメンタリー、ドラマなど、さまざまな手法で、より多くの視聴者獲得を目指します。
- 21年度に刷新した全国向け歴史番組の定着を図ります。歴史に秘められた人間ドラマに分け入り、歴史の奥深さと意外さを浮き彫りにすることで、視聴者層を広げてきました。社会の動きをとらえたテーマ設定や他番組との連動など視聴者の関心をひく工夫を続け、さらなる定着を目指します。
- 全国向けの福祉番組は、21年度、視聴者の声をもとに大幅リニューアルをしました。視聴者とのつながりをさらに深め、障害のある人とない人が“ともに生きる”社会を、番組と視聴者がいっしょになって考えます。

2. 地域の課題に向きあい、視聴者の関心に応える正確・迅速な報道

- 午後6時台の番組を中心とする地域ニュース・情報番組は、放送局ごとの編集方針に基づいて、さらなる充実を図ります。地域の課題に向き合い、視聴者の関心に応じて、関西地方向けあるいは各府県向けに、身近なニュースや暮らしに役立つ情報を伝えます。
- 視聴者にとって関心の高い事件や、時代を象徴する出来事を機敏にとらえ、金曜午後7時台の報道番組で、鋭い検証と的確な解説を織り込み、多角的に掘り下げます。
- 地震・台風などの災害や、事件・事故の発生時には、正確な情報を迅速に伝えます。データ放送やインターネット、携帯端末向けサービスなども活用し、安否情報や生活情報など、いのちと暮らしを守る情報を的確に提供します。また、近い将来に発生が予測されている東南海・南海地震への備えにも、万全を期します。

○平成23年1月、多くの尊い命を奪った阪神・淡路大震災から16年になります。未曾有の災害からの復興に向けた取り組み、命の重さ、人間のきずなの大切さを見つめてきた放送局として、震災の教訓を次世代に伝える取り組みを続けていきます。

3. 信頼に応える選挙報道

○第22回参议院議員通常選挙（任期満了日 7月25日）や各地で行われる首長選挙にあたって、経歴・政見放送や開票速報に万全を期し、公共放送として、公平で信頼される選挙報道を行います。

京都府知事選挙	（投票日	4月11日）
滋賀県知事選挙	（任期満了日	7月19日）
参议院議員通常選挙	（任期満了日	7月25日）
和歌山県知事選挙	（任期満了日	12月16日）

4. 関西の文化や情報を、全国・地域へ発信

○平成22（2010）年は、平城遷都1300年にあたります。この節目の年を、古代史ドラマや長時間の中継番組をはじめとする番組やイベントなど、重層的な展開で盛り上げていきます。また、これを機に歴史と文化遺産を通して古代から現代を見つめ、未来の関西と日本を展望します。

○秋から放送する連続テレビ小説をはじめ、特集ドラマや地域ドラマなど、関西を舞台にしたドラマを積極的に制作し、全国・地域に発信します。

○秋の恒例となった大阪にまつわる曲を集めた大型歌謡番組をはじめ、若い世代に関心の高い音楽と笑いを融合させた番組、地域放送の新たな定番シリーズなど、関西ならではの多彩なバラエティー番組を制作し、それぞれの世代のニーズに応じたくつろぎや楽しみのひとときを届けます。

○能や狂言、文楽や歌舞伎など、関西に根ざした質の高い伝統文化を幅広く取り上げ、全国・地域に紹介することで、その継承や振興に貢献します。

5. アジアの“いま”を伝え、関西との交流を見つめる

○史上最大規模の万博「上海国際博覧会」が5月に開幕します。万博で盛り上がる上海の熱気や人々の挑戦を伝えていきます。また、中国をはじめとする近隣アジア各国・地域の“いま”を伝えるとともに、関西との交流を見つめます。

6. 地域サービスを充実させ、地域の拠点として存在感向上を図る

- 平成22年、大阪放送局は開局85周年を迎えます。視聴者とともに積み重ねてきた蓄積を地域に還元しながら、新たな番組やイベント、キャンペーン展開などを通して、これまで以上に地域に貢献する放送局を目指します。
- 平成23年7月の地上テレビ放送の完全デジタル化を間近に控え、改めて関西におけるブロック放送と府域・県域放送のバランスを検証しながら、“完全デジタル時代の地域放送サービス”のあり方を追究します。
- 関西とその周辺の地域には、厳しい経済情勢の中でも、独創的な発想でビジネスチャンスを見つけ、成功を収めている企業があります。4年目を迎える地域経済番組でその活動を紹介し、地域経済活性化への応援を続けます。より見やすい時間帯への移設や、さらに多くの視聴者に見ていただくための内容の充実を図ります。また、新たに字幕放送を開始し、“人にやさしい放送”の充実に取り組みます。
- 平日夕方のラジオ第1放送で放送するワイド生活情報番組では、聴取者目線の身近な情報をいっそう充実させます。平日夕方にFM放送で放送する音楽番組では、いわゆる“団塊の世代”のさらなる獲得を目指した取り組みを進めます。
- 放送局同士の連携を深めて、関西の各放送局が府県向けに制作する番組をはじめ、西日本の各放送局が制作する地域放送番組を積極的に紹介し、より多彩で魅力的な地域放送を実現します。

7. スポーツ関連放送の充実

- プロ野球やサッカーJリーグ、バスケットボールbjリーグなど地元プロスポーツチームの試合や情報を、ファンの期待に応えて全国放送・地域放送で紹介します。高校野球や大学サッカー、ラグビー、駅伝・マラソンなどを積極的に取り上げ、アマチュアスポーツの振興に寄与します。
- 6月から7月にかけて行われる「2010 FIFAワールドカップ 南アフリカ」では、関西ゆかりの選手の活躍をニュースや番組で詳しく紹介し、視聴者の関心や期待に応えていきます。
- 11月に行われる「2010年第5回スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム・大阪」では、知的発達障害のある人たちの競技会を通して、アスリートのひたむきな姿やそれを支える人々について、ニュースや番組で伝えます。

8. 「いつでも、どこでも、もっと身近に～3-Screens」の実現

- 映像・音声各波をはじめ、インターネットや携帯端末向けサービスなど、それぞれの特性を生かした形で番組や情報を届け、より多くの人々に親しまれ、役立ててもらえるよう努めます。
- 高校野球や駅伝などのスポーツ中継では、データ放送やインターネットを通して、競技についての詳しい情報を提供し、利用者の満足度向上を追求します。
- NHKと市民および市民同士がつながる放送・通信連携の仕組みづくりを続けます。地震や災害で被害を受けた人々への継続的な情報提供などで、人や地域のつながりを支えます。
- 全国の放送局が制作するNHKの番組の中から、“関西”の話題を取り上げたものを、大阪放送局のホームページでまとめて紹介するなど、視聴者の目線に立った、利便性の高いサービスの提供に努めます。

9. 地上テレビ放送の完全デジタル化に向けた取り組みの強化

- 地上テレビ放送の円滑な完全デジタル移行に向け、視聴者の理解を促進する番組や普及活動などに積極的に取り組みます。

《各局の重点事項》

大阪放送局

- 大阪府民の生活に直結する事件や社会の動きを機動的に取材し、視聴者の“知りたいこと”にタイムリーに応えます。さらなる強化を図る平日午後6時台の地域ニュース番組を核として、大阪・関西の“いま”を、視聴者に分かりやすく伝えます。
- 任期後半に入った橋下大阪府知事の推し進める政策は、関西3空港問題のあり方や府庁舎移転問題の行方など、今年も注目されています。今後、府民の暮らしや大阪の将来にどのような影響を及ぼすのか注視し、さまざまな機会をとらえた検証を続けます。
- 世界的にも厳しい経済情勢は、府民の生活にも大きな影を落としています。そのような中、昨年9月に発足した新政権はさまざまな政治、経済システムの変革に取り組んでいます。このような動きは府民の生活をどのように変えていくのか、政権の動向を府民目線で注意深く見つけ、分かりやすく伝えます。
- 有力選手の加入などで今年も注目を集める「阪神タイガース」と「オリックス・バファローズ」、天皇杯で連覇を果たした「ガンバ大阪」、J1復帰を果たした「セレッソ大阪」など、活気づく地元プロスポーツチームの試合や情報を、中継やニュースで積極的に伝え、地元ファンの期待に応えます。高校野球をはじめとするアマチュアスポーツも幅広く取り上げ、地域スポーツの振興に寄与します。
- スタジオやホールなどを活用し、視聴者にいっそう親しまれる放送局を目指します。「NHK大阪ホール」ではスケール感があり楽しめる公開番組やイベントを実施し、公開スタジオ「BKプラザ」からは、午前11時台の情報番組や午後5時台の若い視聴者層に向けた番組を公開生放送で届けます。5月に5日間にわたって開催する会館公開イベントの時期には大型の公開番組をはじめとするさまざまな番組やイベントで、幅広い世代に足を運んでいただける“地域の広場”を目指します。

京都放送局

- 京都は学生の人口比率が日本一です。京都放送局ではこれまで「NHK全国大学放送コンテスト」や「NHKセミナー」、「京都学生祭典」への協賛イベントなどを実施し、学生たちとのきずなを深めてきました。これらの蓄積を生かし、“若者のまち”にふさわしい、若者が参加する番組やイベントを積極的に展開し、若者たちにNHKの存在をアピールします。
- 円高や長引く景気後退は、伝統産業とハイテク産業が共存する京都にも大きな影響を及ぼし、府民の暮らしに不安を与えています。一方で、京都議定書が締結された京都では、産・官・学が環境問題において先進的な取り組みを行っています。こうした地域の課題や最新の動きをタイムリーに伝えます。また、4月に任期満了を迎える京都府知事選挙、夏には第22回参議院議員通常選挙が予定されています。京都放送局では、正確で迅速な選挙報道に努めるとともに、府政の行方を的確に伝えていきます。地域放送の中核である午後6時台のニュース情報番組では、ニュースやリポートに加え、暮らしに役立つ幅広い情報をきめ細かく伝え、“京都府民の広場”として充実に努めます。
- 地上放送の完全デジタル移行まで余すところ1年となりました。京都放送局では地上デジタル放送の特性・魅力を分かりやすく伝える活動を展開するとともに、関係機関と密接に連携し、地上デジタル放送の普及に努めます。
- 安土桃山時代を代表する画家・長谷川等伯の没後400年を機に、「長谷川等伯展」(4月～5月)や、大河ドラマ「龍馬伝」に連携した特別展「龍馬伝」(6月～7月)を実施します。このほか、関連番組や視聴者との交流をはかるさまざまなイベントを実施し、視聴者サービスに努めます。
- 歴史、文化が息づく京都府には、世界中から年間7000万を越える観光客が訪れています。貴重な伝統文化や地域文化の継承と発展に資する番組を制作するとともに、多くの人をひきつける京都の魅力を全国に発信します。
- 視聴者と京都放送局が接触する機会をさらに広げるため、インターネットの活用や番組と連動したデータ放送の実施に努めます。また、すでに行っている「河川水位情報」、「避難情報」、「河川カメラ情報」など非常時に役立つデータ放送のコンテンツを充実させるなど、「3-Screens」展開に積極的に取り組みます。

神戸放送局

- 平成23年7月のテレビ放送の完全デジタル化まで1年余り。神戸放送局では、高画質や、高音質、高い双方向機能といったデジタル放送の特性を生かした番組制作や編成に取り組み、課題の多様さや規模の大きさから“日本の縮図”と言われる兵庫県のデジタル化を着実に推進します。そして、データ放送、携帯サイト、ホームページ、大型画面を使ったパブリックビューイングなどへもコンテンツを展開し、放送・通信融合時代の公共放送の役割を果たします。
- 昨年（平成21年）に神戸放送局が独自に行った電話調査で、兵庫県民は、どの地域に居住しているかに関わらず、阪神地域への情報ニーズが高いことが分かりました。また、この地域はアナログ時代においては、大阪の電波を受信することの多かった地域でもあります。神戸放送局では、地域的话题をふんだんにお伝えする「ふるさとキャラバン」や新しく設置した阪神報道室も活用して、この地域における“神戸デジタル”の存在感を高めます。
- 6434人が犠牲になった阪神・淡路大震災は、発生から15年が経過しました。地域の風景にその痕跡を見ることは殆どなくなりましたが、未だ心に大きな傷を負ったままの被災者は少なくありません。一方で被災体験の風化も指摘され始めています。神戸放送局は「いのちを守る放送局」として、今後も被災者の方々と正面から向き合い、心の復興への歩みや防災への取り組みなどを克明に取材し、震災の教訓を後世に伝えてゆきます。
- 107人が死亡、562人が重軽傷を負ったJR福知山線の脱線事故は、平成22年4月25日で、発生から5年になります。被害者や遺族は心や体の傷を癒すことが出来ず、事故原因の究明をめぐるJR西日本の組織的で不適切な関与も明らかになるなど、新たな問題も起きています。「事故の教訓は生かされているのか、大量輸送機関の安全とは何なのか」、神戸放送局は地元の報道機関として被害者や遺族に寄り添い、悲劇を繰り返さないために何が必要なのかを取材し、発信します。
- 時はまさに変革の時代。日米の相次ぐ政権交代、長引く経済危機への対応、地球規模の環境問題への取り組みなど、政治・経済・社会のシステムが大きく変わってきています。神戸空港のあり方やスーパーコンピューターの整備問題、医療体制の再編成等、兵庫県が直面する課題に鋭く切り込んでお伝えします。地元マスコミやケーブルテレビ各社との連携を強化し、多面的に地域の課題や話題を紹介していきます。

和歌山放送局

- 近い将来に発生が予測されている東南海・南海地震に備え、継続的に防災や減災に役立つニュースや企画、特集番組を制作し、地域の人たちの“いのち”と“暮らし”を守ることに努めます。
- 平成22年度は第22回参議院議員通常選挙をはじめ、県知事選挙（任期満了日 12月16日）や和歌山市長選挙（任期満了日 8月24日）など国や地域の将来を左右する選挙が相次ぎます。政見・経歴放送や開票速報に万全を期し、信頼される選挙報道を行います。
- 平日午後6時台の県内向けニュース番組のいっそうの充実をはかります。地域の課題に向き合いながら、視聴者にとって満足度の高いニュースや、暮らしに役立つ情報を伝えます。また、識者が10年後の和歌山を見据えて徹底討論する地域特集番組の制作に継続して取り組み、“放送局のちから”をより高めていきます。
- 5年後の「高野山開創1200年」に向けて、高野山の壇上伽藍周辺の整備や中門の再建、貴重な密教美術や伝統行事などの長期取材を開始します。和歌山県の文化遺産の魅力を地域や全国に向けて発信します。
- トルコの軍艦「エルトゥール号」が和歌山県串本沖で遭難した海難事故から今年で120年になります。当時、串本の人たちが不眠不休で乗組員を助けたことが、日本とトルコの友好の礎となりました。受け継がれる記憶と友情を掘り下げて取材し発信します。
- 今年で、和歌山放送局がFM番組の制作・放送を開始してから40年になります。番組内容のいっそうのブラッシュアップをはかるとともに、公開放送やイベント開発に取り組みます。
- 地上デジタル放送のデータ放送で、県と国が管理する河川水位情報や雨量、市町村が発表する避難勧告や避難指示などの情報の提供を始めます。データ放送の特徴を生かした地域の防災情報の充実をはかります。
- 教育現場での「番組上映会」を積極的に開催します。上映会実施にあたっては、番組広報やふれあいミーティングを実施し、若い世代の接触者率向上に努めます。

奈良放送局

- 2010年「平城遷都1300年」を機会に、「平城遷都1300年祭」の催しをくまなく紹介するとともに、文化財をはじめ、日本の始まりの地・奈良の深い魅力を改めて掘り起こし、たっぷりと伝えます。

伝え方についても、平城宮跡に設置予定のサテライトスタジオからの放送に加え、ニュース・生中継・ドキュメンタリー・紀行・視聴者参加・イベント・放送と連動してインターネットや携帯端末などのさまざまなメディアを有効に活用する“3-Screens”展開など、接触者率の向上も念頭に置いた手法・メディアを多角的に駆使します。

地元の人々とも協力し、遷都1300年後の奈良県内の活動もにらみながら、県内、関西、全国へ発信していきます。

- 医療、教育、子ども、食、経済、財政、自然、環境など、今の奈良県の課題と可能性に迫り、県内の視聴者の皆様とともに考え、関西・全国へもニュース・番組として、積極的に放送していきます。
- 政権交代後、奈良県では初めての国政選挙となる夏の第22回参議院議員通常選挙について、正確・公平・迅速な報道に全力でとりくみます。
- 平成23年の地上テレビ放送の完全デジタル化を前に、奈良盆地内や南部山間地域での地上デジタル放送の受信方法を細かく解説し、早期に移行していただくなど、地上デジタル放送の周知・普及をさらに積極的に行います。

大津放送局

- 地球環境を映し出す鏡とも言える「びわ湖」で起きているさまざまな問題を多角的に取材し、全国放送や近畿ブロックへ向けて発信することで、“環境こだわり放送局”としてのステーションイメージのいっそうの向上を図ります。びわ湖の自然と人の営みについて、年間を通じてハイビジョンで記録します。蓄積した映像を随時、県域放送で取り上げ、新しい住民が増えている滋賀県における「びわ湖」と人とのつながりを見つめ直します。
- 浅井三姉妹の末娘がヒロインの大河ドラマ「江～姫たちの戦国」が、平成23年に放送されます。これに向けて、滋賀の豊かな歴史遺産などを広く放送で紹介するとともに、ドラマと連動した地域の振興にも貢献していきます。また毎年継続している百人一首かるた名人戦など滋賀県の歴史や文化を掘り下げる番組を、全国放送や近畿ブロック向けの放送と効果的に連動させ制作・編成していきます。明確な視点で分かりやすく文化を紹介する番組をつくり、地域に向けて発信する情報を充実させるとともに、地域からの発信力を高めます。
- 新幹線新駅の建設中止やダム建設凍結など公共事業のあり方を大きく見直した嘉田県政。その改革の方向性について県民の審判を仰ぐ知事選挙が夏に行われます。厳しい県財政が続く中で、県民の暮らしをどう守っていくのかを問う重要な選挙です。第22回参議院議員通常選挙とあわせて、選挙の構図や位置づけを詳しく伝えるとともに正確で迅速な選挙報道に努めます。
- 地域経済の低迷で深刻化する雇用など滋賀県が今、直面している、さまざまな課題を継続的、多角的に取材して問題点を浮き彫りにするとともに、分かりやすく伝え、地域の人たちと一緒に課題解決のための方策を考えます。
- 夕方のニュース情報番組において、放送コンテストや学校音楽コンクール、放送体験クラブなどのイベントと連携した番組展開に積極的に取り組み、地域における放送局の存在感を高めていきます。青少年や主婦層に身近に感じてもらうコーナーを充実、開発していくことで、接触者率の向上につなげていきます。

平成22年度 中部地方向け地域放送番組編集計画

《基本方針》

中部地方の各放送局は、地域の課題と将来像を視聴者とともに考える報道・情報番組を強化するとともに、それぞれの地域の特性や要望に応じて多様な地域サービスを展開します。

政治、社会システムの変革や長引く経済危機など、国内外の情勢の変動が、中部地方の経済や暮らしに影響をあたえています。地域経済の動きや、暮らしの安心・安全に関わる問題など、中部が抱える課題に正面から向き合い、地域の人々とともに解決に向けた道筋を探ります。

公共放送の使命である災害・緊急報道にあたっては、迅速かつ的確な情報の提供に全力を尽くします。「東海地震」「東南海地震」などの大規模災害に備えた、防災・減災に役立つ情報の提供に努め、地域住民の生命・財産を守ります。

地域の明るい話題を積極的に取り上げるとともに、自然や文化など、豊かで魅力あふれる中部の姿を地域や全国に発信し、視聴者に元気を届けます。また、地域に向き合う各放送局独自の取り組みを多角的に展開するほか、地域を盛り上げようとする動きを視聴者とともに応援し、地域の活性化に貢献します。

中部地方では、環境に関する国際会議やイベントが開催されます。地球規模の環境問題をさまざまな角度から検証するとともに、地域の人々と一緒に、身近な環境問題から地球環境を考えます。

平成23年7月の地上テレビ放送の完全デジタル移行に向け、アナログ放送終了の周知広報、地上デジタル放送の普及に努めます。また、パソコンや携帯端末などを通じて、多彩なサービスを提供し、幅広い世代の視聴者との結び付きを強めます。

中部地方の各放送局は、こうした取り組みを通じて、地域の人々の役に立ち、親しまれ信頼される放送局を目指します。

《重点事項》

1. 地域の課題解決と活性化に役立つ放送に力を注ぎます

○政権交代などによる政治、社会システムの変革や長引く経済危機など、国内外の情勢の変動が、中部地方の経済や暮らしに影響をあたえています。地域経済、少子高齢化、医療、福祉など、地域が抱えるさまざまな課題を、平日午後6時台や金曜午後7、8時台の地域放送番組などで多角的に取り上げ、解決に向けた道筋を考えます。

○各放送局は、地域の明るい話題を、ニュースや番組で積極的に取り上げるほか、地域に向き合う独自の取り組みを多角的に展開するなど、放送を通して地域を応援します。

2. 中部地方の魅力を地域の視聴者に届け、全国にも積極的に発信します

○豊かな自然や文化、人々の暮らしなど、話題性と存在感があるテーマにとことんこだわり、中部の魅力を多彩な手法でたっぷり伝える地域放送番組の制作に取り組むとともに、全国へ向けて積極的に発信します。

○中部地方の魅力ある人や生き様に迫るドキュメンタリーなどを制作し、視聴者の関心と期待に応えます。

3. 地域とともに地球環境を考えます

○平成22年、中部地方では、「生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）」（愛知県）、「APECエネルギー大臣会合」（福井県）、「第30回全国豊かな海づくり大会～ぎふ長良川大会～」(岐阜県)が開催されます。これらの環境に関する国際会議やイベントに関連した番組を、地域や全国に向けて積極的に発信し、地域の自然や身近な環境問題について、視聴者とともに考えます。

4. 緊急報道と防災・減災に全力を尽くします

- 大規模地震、津波、台風、集中豪雨、大雪などの自然災害や、原子力関連の事故など、地域住民の生命や財産にかかわる災害や事件・事故にあたっては、迅速で正確な報道に全力を尽くします。データ放送やインターネットなどを活用した、きめ細かい情報の提供にも努めます。
- 近い将来の発生が予測されている「東海地震」「東南海地震」などの大規模災害に備え、防災・減災に関する情報や番組を放送し、地域の防災意識の向上に努めます。

5. 公正で的確な選挙報道で視聴者の信頼に応えます

- 政権交代後初めての大型国政選挙となる第22回参議院議員通常選挙(任期満了日 平成22年7月25日)や、愛知県知事選挙(任期満了日 平成23年2月14日)など中部地方で行われる首長選挙にあたっては、有権者の判断のよりどころとなる公正・的確な情報提供に努め、選挙放送に万全を期します。

6. 多様な回路を活用し、幅広い世代の視聴者との結び付きを強めます

- 地域に密着した情報や番組を、パソコンや携帯端末、データ放送など多様なメディアにふさわしい形で提供し、幅広い世代の人たちが、いつでも、どこでもNHKに接することができるように努めます。
- 若者に人気のアーティストによる公開ライブ番組の放送や、番組ホームページの充実など、若い世代へのアプローチにも引き続き力を入れていきます。
- 平日午後6時台の地域情報番組のキャラバン中継など、公開番組やイベントを通じて地域の視聴者とふれあう場を大切にします。

7. 地域に根ざしたスポーツを視聴者とともに盛り上げます

- プロ野球「中日ドラゴンズ」や、プロ野球独立リーグ・BCリーグなどの野球に加え、サッカーやバスケットボールなどの競技でも、地元チームが活躍しています。地域の関心が高い地元チームの試合を積極的に中継するほか、その活躍ぶりをきめ細かく伝え、視聴者とともに地域に根ざしたスポーツを応援します。「2010 FIFAワールドカップ南アフリカ」に出場する地域ゆかりの選手の話も取り上げ、視聴者の関心に応えます。

《各局の重点事項》

名古屋放送局

○地域の課題に向き合い、暮らしの安心・安全を支えます

製造業が中心の東海経済の動きや、暮らしの安心・安全に関わる問題など、地域が抱えるさまざまな課題に向き合います。ニュースや平日午後6時台の地域情報番組、金曜午後7、8時台の地域放送番組などで、きめ細かく取材・分析し、解決策を探ります。

また、消費生活・防犯・防災など、暮らしに役立つ新たな地域情報サービスを開始します。放送のほか、パソコンや携帯端末などを活用し、地域の安心・安全を支える情報の提供に努めます。

○地域を元気にする放送局を目指します

地域の明るい話題を提供し、視聴者を元気づける放送を届けます。また、「名古屋開府400年」や「あいちトリエンナーレ2010」など、地域を盛り上げる取り組みをニュースや番組で積極的に取り上げ、地元の放送局として視聴者とともに応援し、地域の活性化に貢献します。

○身近な環境問題から地球環境を考えます

平成22年は国連の定めた「国際生物多様性年」です。10月には名古屋市で190を超える国・地域が生物多様性の保全・利用について話し合う「生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）」が開催されます。地球規模の環境問題をさまざまな角度から検証するほか、身近な問題として視聴者とともに考えます。

NHK環境キャンペーンや環境特集番組「SAVE THE FUTURE」と連動した放送やイベントなどを通して、地域の自然や環境に対する関心を高めます。

○全国放送番組も積極的に制作します

49年目を迎える「中学生日記」は、親子で共感できる番組として、3年目を迎える「めざせ！会社の星」は、働く若者を応援する番組として、内容をいっそう充実させます。また、社会で問われている問題の縮図を描く「土曜ドラマ」や、戦争や平和をテーマにした特集ドラマの制作に引き続き取り組みます。このほか、ラジオ第1放送の「ゆきねえの名古屋なごやか喫茶」など、多彩な全国放送番組を積極的に制作し、愛知県の魅力を全国に発信します。

○県民の生命や財産を守るための情報を伝えます

地震や津波・台風・集中豪雨などの災害報道や、事件・事故などの緊急報道にあたっては、県民の生命や財産を守るために必要な情報を迅速かつ的確に提供し、インターネットやデータ放送でもきめ細かく伝えます。

「東海地震」「東南海地震」などの大規模災害に備え、地域の防災意識を高める番組を継続的に放送するほか、県や国から提供される河川水位情報をはじめとした防災情報をデータ放送で伝えます。

○選挙関連放送に万全を期します

第22回参議院議員通常選挙や、愛知県知事選挙など、愛知、岐阜、三重県で行われる選挙にあたっては、政見・経歴放送や開票速報に万全を期するとともに、有権者に向けて選挙の争点や地域の政治課題などを公正に分かりやすく伝えます。

○地上デジタル放送への着実な移行に取り組みます

平成23年7月の地上テレビ放送の完全デジタル移行に向け、放送やホームページなど多様なメディアを活用して、アナログ放送終了の周知広報に努めます。

視聴者参加の双方向番組やデータ放送、5.1CHサラウンドなど、デジタル放送ならではのサービスに引き続き取り組み、地上デジタル放送の魅力も伝えます。

○さまざまなメディアを活用してサービスを届けます

いつでも、どこでも、見たいとき、知りたいときにNHKに接することができる環境を整え、だれもが利用しやすい情報の提供に努めます。

地域のニュースや番組、暮らしの安全に役立つ情報を、パソコン、携帯端末やワンセグ、データ放送、番組ガイド（EPG）など、それぞれの利用形態に適した形で、あらゆる世代の人たちに向けて提供します。また、平成20年に開設したポルトガル語のサイトを継続し、ニュースや生活情報など日本に暮らすブラジル人に役立つ情報を提供します。

○地域のスポーツを応援します

リーグ優勝、日本一奪還をめざすプロ野球「中日ドラゴンズ」や、タイトル奪取に挑むサッカーJ1「名古屋グランパス」については、試合の中継のほか、ニュース・番組やデータ放送で情報をきめ細かく伝え、視聴者とともに応援します。高校野球をはじめ県勢の活躍が目立つ高校スポーツなどのアマチュアスポーツについても、積極的に取り上げます。

「2010NHK国際フィギュアスケート競技大会」（平成22年10月21日～10月24日）、「第75回日本オープンゴルフ選手権競技」（平成22年10月4日～10月17日）が開催されます。競技の中継のほか、地元ゆかりの選手の活躍や関連情報を積極的に伝えます。

金沢放送局

○金沢放送局開局80周年記念事業を展開します

金沢放送局は平成22年4月15日に開局80周年を迎えます。80周年に先立って誕生したキャラクター「ことじろう」と“あんやとね 80周年”というキーワードを軸に、公開番組を含むテレビ・ラジオの特集番組や、著名人などからのメッセージ・インタビューの放送、また金沢放送局開局当時の貴重な資料や放送機材等の展覧会、今注目を集めている3D映像の体験試写などの事業を通じて、あらゆる角度から80周年を盛り上げ、地域における金沢放送局の存在感を高めます。

○地域の課題に真正面から取り組みます

経済不況が長引く中、石川県では大手企業の工場閉鎖が相次いで発表されました。希望退職の募集、配置転換、期間従業員の契約終了など雇用不安は大きな課題です。また、北陸新幹線の建設や事故が頻発した志賀原発の動向、浅野川水害の訴訟問題など地域の問題を継続取材し県民の生命・財産を守る情報を伝えていきます。

○地域放送の過去・現在・未来をつなぎます

開局80周年にともない、平日午前11時台、午後6時台の地域情報番組を強化し、さらに地域に密着した放送局を目指します。県内各地を訪ねる移動スタジオやニュースキャラバンのほかに、10代～30代の若者を対象としたバラエティー番組「よせがき☆テレビ かいてみんけ↑」など、積極的に視聴者と交流し一緒に番組作りに取り組むことで接触者率の向上にも努めます。また、これまで蓄積してきた金沢放送局制作番組のアーカイブス化を進め、独自のアーカイブス番組枠を新設し、過去の名作を放送します。過去の番組を放送し、石川県の現在を見つめ直すことで、未来への展望を探ります。

○正確・迅速な選挙報道を行います

平成22年度は、第22回参議院議員通常選挙、金沢市長選挙（任期満了日 平成22年12月9日）ほか2つの自治体で首長選挙が予定されています。選挙報道にあたっては、政見・経歴放送や開票速報に全力を尽くすとともに、有権者の判断のよりどころとなる情報を的確に伝え、公共放送の使命を果たします。

○災害・緊急報道に万全を期します

平成19年に起こった能登半島地震、また平成20年に起こった浅野川のはんらんでの経験を生かし、地震や台風、集中豪雨などの災害報道では、県民の生命や財産を守るために必要な情報を迅速かつ的確に提供します。あわせて、データ放送やインターネットでもきめ細かな情報を伝え、視聴者の防災意識の向上に貢献し、全力で放送に取り組みます。

○地上テレビ放送の完全デジタル化へのさらなる理解推進を目指します

石川県珠洲市では、全国に先んじて平成22年7月24日から地上アナログ放送が停波します。県内の各民放と協力して着実に停波の準備を進めるとともに、新たに鶴来・鳥越・尾口・白峰・白山下・津幡竹橋・加賀東谷口・片山津の8か所で中継局を開局します。これにより県内の地上デジタル放送を視聴できる世帯は97.1%に達する予定です。ハイビジョンの魅力を存分に伝える番組の制作や、イベント会場において地デジ相談窓口を設置するなど、視聴者へのきめ細かな情報提供と、理解促進に努めます。

○地域のスポーツ・文化を応援します

今季サッカーJFL昇格を果たし、Jリーグ入りを狙う「ツエーゲン石川」、プロ野球独立リーグ・BCリーグの「石川ミリオンスタース」、日本ハンドボールリーグ女子の強豪「北國銀行」、また10月に開催される「ねんりんピック」、さらに夏・秋の高校野球大会などの試合を中継し地域放送番組内でも紹介することで、地域スポーツの振興に寄与します。また、大リーグで日本人初のワールドシリーズMVPに選出され、今シーズン新天地「エンゼルス」で活躍が期待される松井秀喜選手を、引き続き平日午後6時台の地域情報番組の「レッツゴー松井」のコーナーで取り上げていきます。また、文化面では57回を迎える「日本伝統工芸展」をはじめ、生誕200年を迎えるショパンをテーマにした「ラ・フォル・ジュルネ金沢『熱狂の日』音楽祭2010」や金沢21世紀美術館がルーブル美術館と合同で行う特別展などを支援していきます。

静岡放送局

○地域の課題、直面する問題を積極的に取りあげて解決策を探ります

静岡県は民主党の推薦を受けて当選した川勝知事が就任2年目を迎え、そのかじ取りが注目されています。長引く不況と雇用不安、産業の活性化、観光資源を生かしての地域振興策など課題が山積しています。去年開港した静岡空港はJALが撤退する中、どのように利用促進を図っていくか大きな課題です。環境問題や医師不足が深刻化する地域医療への取り組みも急務です。

豊かな暮らしと安心・安全を確保するために何が必要かを考え、平日午後6時台の地域情報番組や金曜午後8時台の地域放送番組で積極的に問題提起して解決の糸口を探ります。

○開局80周年を機に地域の“いま”を見つめ直し“これから”を展望します

静岡放送局は平成23年3月に開局80周年を迎えます。これに合わせて、昭和から平成にかけての静岡県の歩みを振り返り、地域の現状を映し出す記念番組を展開します。産業の発展や交通網の整備など静岡県の歩みを象徴するテーマを選び、長年の取材で蓄積してきた貴重な映像を活用しながら地域の“いま”を見つめて“これから”を考えるヒントを提示します。80周年に向けては公開番組やイベントなども繰り広げて視聴者とのつながりを深め、存在感を高めます。

○地域を元気にし、開かれた放送局を目指します

地元で根差した放送局として視聴者が生き生きと元気になる情報を届け、地域の活性化、郷土の文化の伝承に寄与します。放送局の力を結集し、平日午後6時台の地域情報番組は県内各地を回る中継キャラバンを充実させていきます。大学生にDJとして参加してもらおう独自のFM番組もキャンパスでの公開収録を試み、地域の応援団として開かれた放送局を目指します。

○東海地震への備えを徹底し、防災・減災報道に努めます

静岡県では去年8月、駿河湾を震源とする地震が起き震度6弱を観測しました。東海地震に結びつくものではなかったものの気象庁は前兆かどうか調べるという「観測情報」を初めて発表し改めて防災意識が高まっています。これを踏まえ、防災・減災に関する最新情報や身近な対策を幅広く取り上げ「防災の日」に合わせた特集番組などにつなげます。台風や集中豪雨といった気象災害についても、きめの細かい迅速な情報発信に努め、情報はホームページやデータ放送でも伝え、災害から暮らしを守る放送に力を尽くします。

○独自のデジタルコンテンツをいっそう充実させます

多様なメディアを活用しての地域サービスとして、静岡放送局では昨年以降、ホームページの刷新に取り組んでいます。メールマガジンをスタートさせるとともに防災ポータルサイトを新設し高い支持を得ています。平成22年度は東海地震の際の避難先を地図で明示するなど、より詳細でわかりやすいコンテンツの開発を進め、生命・財産を守る機能を高めます。また地域情報番組や広報番組と連動して視聴者からの質問、疑問に答える取り組みをさらに広げ、双方向性を高めることで接触者率の向上を図ります。

○選挙報道に万全を期し、的確・迅速に対応します

平成22年度は第22回参議院議員通常選挙が予定されています。静岡県では熱海市、三島市などの首長選挙も行われる予定です。政権交代後の社会情勢を見極めながら深みのある取材を進めて、争点や政治課題など有権者の判断のよりどころとなる情報を公正にわかりやすく伝えます。政見・経歴放送や開票速報に万全の体制で臨み、的確・迅速な報道で視聴者の関心に応えます。

○地元のスポーツを盛り上げ、生き生きと発信します

静岡県はサッカーJ1の「清水エスパルス」と「ジュビロ磐田」がホームタウンを置き、熱烈なサッカーファンが数多くいます。バスケットボールbjリーグの「浜松・東三河フェニックス」にも熱い期待が寄せられています。高校野球、高校サッカーへの関心も高く、選手たちの活躍は地域の活力になっています。プロ、アマを問わずさまざまなスポーツの情報をヒューマンな視点で生き生きと発信し、地域を盛り上げます。

福井放送局

○地域放送を充実させます

“視聴者層の拡大”“視聴者とともに作る放送”“福井の発信”を目指し地域放送をいっそう充実させます。平日午後6時台の地域情報番組では、30・40代の女性や大学生、若い社会人といった幅広い世代に共感される番組を目指し、視聴者層の拡大を図ります。金曜午後8時台の地域放送番組では、さらなる内容の充実と定着を図り、地域の魅力や課題・将来像を考えます。また、より多くの視聴者とふれあい、ともに作る番組を目指し、地域を訪ねる公開放送や“放送を体感できるイベント”の充実を図ります。さらに、大河ドラマ「龍馬伝」や「江」において福井ゆかりの出来事・人物が登場する機会などをとらえ、福井の全国発信を図ります。

○災害・緊急報道に迅速かつ的確に取り組みます

地震、台風、豪雨、豪雪など、県民の安心・安全にかかわる自然災害報道や事件・事故の緊急報道では、取材・制作体制を強化し正確・迅速な情報を提供します。災害時には刻々と変化する状況を把握し、パソコンや携帯端末なども活用し、必要とされる情報を必要とするところに着実に届けます。

○原子力発電所の動向を詳しく伝えます

全国最多の14基の原子力発電所を抱える福井県。長期間の停止を経て平成21年度中に運転再開を目指す高速増殖炉「もんじゅ」をめぐる動きや、運転開始40年を超える「敦賀1号機」「美浜1号機」など老朽化した原発の安全対策や耐震への取り組み、22年度の開始を目指す「高浜3・4号機」のプルサーマル計画の動きなどをきめ細かく、わかりやすく伝えます。また、原子力施設を活用して産業育成を目指す県のエネルギー研究開発拠点化計画の動きなど、地域振興の面からも多角的に検証します。

○地域経済の活性化や地域の街づくりのありようを、ともに考え、伝えます

長引く経済危機は県内経済にも影響を与え、企業の業績や雇用情勢の悪化が続いています。行き詰まり感の強まる地域経済の動きをていねいに伝えます。また、中心市街地の活性化に取り組む人たちと連携するなどし、地域に元気が出る放送を目指します。さらに、政権交代により先行きが不透明になりつつある北陸新幹線や中部縦貫自動車道といった高速交通体系や地域の足としての公共交通のありようを、地域経済や地域格差解消の視点から伝えます。

○選挙関連放送に万全の体制で取り組みます

平成22年度は第22回参議院議員通常選挙が予定されています。政権交代によって新たに浮き彫りになった課題など、有権者の判断のよりどころとなる情報を公平にわかりやすく伝えます。正確・迅速な政見・経歴放送や開票速報に万全の体制で取り組みます。

○デジタル放送への着実な移行に取り組みます

平成23年7月の地上と衛星のテレビ放送の完全デジタル化に向け、送信設備の着実な整備を進めるとともに、地域放送番組において、県内の受信者に対してデジタル化への呼びかけや課題解決への具体的なアドバイスなどを充実し、普及促進の徹底に取り組みます。

○地域の自然や身近な環境問題について考えます

平成22年6月19・20日に「APECエネルギー大臣会合」が福井市で開催され、これからの地球温暖化や省エネルギー対策について議論されます。世界的に注目される議論のゆくえを詳しく伝えます。環境に対する意識が高まる中、地元メディアとも連携しながら、昨年に引き続き地域の自然や身近な環境問題について考えます。

富山放送局

○新たなキャンペーンを展開します

富山放送局は、平成20年度から2年間にわたって、人と人とのつながりの大切さを訴える“ひとりじゃない”キャンペーンを実施してきました。22年度は、富山の未来を豊かなものにするためのヒントを探る“あした、みつけた。”キャンペーンを展開します。医療制度や長引く不況など、地域の課題と向き合い、新しい時代に向かう取り組みの芽を見出して、希望につながるメッセージを届けます。

○地域放送を充実させます

平成22年度は、平日午後6時台の地域情報番組を大幅に刷新します。富山の人々、暮らし、文化を視聴者の立場に立って取材し、“人”に焦点を当ててニュースを伝えます。移動スタジオや中継を積極的に行うことで地元の人々とふれあう機会を増やし、より身近で親しみのある番組制作に取り組みます。さらに、平日午後6時台だけでなく、視聴好適時間帯に、暮らし・産業・教育・自然などさまざまなテーマで、富山に関連したタイムリーで質の高い番組を編成し、地域・全国に向けて発信します。

○地上デジタル放送への理解促進を図ります

地上テレビ放送の完全デジタル移行まで1年。富山放送局は去年までに地上デジタル放送の中継局を整備し、送信設備の建設を完了しました。また、総務省「地上デジタルテレビ放送に関する浸透度調査」によると、県内の受信機の世帯普及率（平成21年9月現在）は72.4%に達し、受信者側の準備も着々と進んでいます。一方で、県内は住宅事情などにより個々の受信設備が多様なため、放送を通じて受信方法に対するきめ細かな理解促進活動に努めていきます。また、番組・データ放送・ホームページを連動させた3-Screensのサービスを充実させて、視聴者の接触率向上に取り組みます。

○選挙報道を迅速・正確に伝えます

今年は、第22回参議院議員通常選挙が行われます。選挙報道にあたっては、有権者の投票行動の判断の材料となるよう、選挙の争点や候補者の訴えを公正に分かりやすく伝えるとともに、政見放送や的確・迅速な開票速報に万全の体制で取り組みます。

○地域スポーツを応援します

平成20年度にスタートした“スポーツ応援団プロジェクト”を強化し、放送やイベントなどを通じて富山県のスポーツシーンを盛り上げるとともに、地域の人たちに元気を届けます。サッカーJ2、バスケットボールbjリーグ、プロ野球独立リーグ・BCリーグといったプロスポーツや、高校野球をはじめとしたアマチュアスポーツについて、ニュースや試合中継、ホームページを通して、選手たちの活躍や取り組む姿勢などを伝えます。また、今年、富山県で行われる生涯スポーツの祭典「第23回全国スポーツ・レクリエーション祭『スポレクとやま2010』」に向けた動きや大会の様子を取材し、生涯スポーツの魅力も伝えます。

○視聴者とのつながりをいっそう深めます

富山放送局はこれまで、放送と連動した多彩なイベントを数多く実施し、NHKの存在感をPRするとともに、視聴者とのふれあいを大切にしてきました。平成22年度はこの取り組みを強化し、公開番組や地上デジタル放送関連イベント、ファミリー向けのキャラクターショー、若い世代にファンの多いスポーツに関連したイベントなどを実施し、幅広い世代の視聴者とのつながりをいっそう深めます。また、富山局のギャラリーを一新し、ギャラリーでの催しを通じて、地域の視聴者にとってより開かれた放送局を目指します。

○地域経済の動向をきめ細かく伝えます

富山県では、平成26年度末までに予定されている北陸新幹線の開業、去年環状化した路面電車と富山ライトレールの連携による富山市中心部の公共交通の整備、伏木富山港と東海北陸自動車道を生かしたロシア向けの新たな物流ルートの開拓など、さまざまな巨大プロジェクトが進められています。新幹線や高速道路をどのように生かし、人の交流を盛んにしていくのか。他の地域に負けない付加価値の高い特産品をどのように生み出すのか。少子高齢化が進む中で中心市街地をどのように活性化するのか。デフレ経済の中で新たな取り組みが求められている地域経済の動向について、きめ細かく伝えていきます。

○迅速・的確な災害・緊急報道を実施します

自然災害が比較的少ない富山県も、一昨年2月に起きた入善町の高波被害や、同年夏に県内を襲った“ゲリラ豪雨”、北陸地方特有の大雪など、自然災害とは常に隣り合っています。また、立山連峰には登山客が多く、山岳事故も多発します。富山放送局は、県民の生命・財産を守るために、自然災害報道や事件・事故の緊急報道を迅速・的確に実施します。また、機会を捉えて、防災意識を啓発するレポート等を放送し、県民の安全確保に寄与します。

津放送局

○地域放送を充実させます

平日午後6時台の地域情報番組は、県民の関心が高いニュースや話題、生活に関するさまざまなテーマを取り上げ、記者解説や専門家へのインタビューなども交えて分かりやすく伝えます。また、金曜午後7、8時台では、人・自然・文化など県内の魅力を掘り起こす番組や、地域の人々の暮らしや思いに正面から向き合う番組の制作に努めるなど、地域放送のさらなる充実を図り、視聴者に親しまれる放送局を目指します。

○津放送局開局70周年記念事業を展開します

平成22年9月、津放送局が開局して70周年という節目を迎えます。津放送局では、70周年を記念したイベントや視聴者との結び付きを強める公開番組を展開し、地域に根ざした放送局としての存在感をアピールします。また、イベントなどを通して幅広い世代の視聴者と接することで、新しい視聴者層の拡大にも積極的に取り組みます。

○災害・緊急報道に全力で取り組むとともに、防災に役立つ情報を提供します

地震・台風などの災害報道や事件・事故などの緊急報道に引き続き全力で取り組み、公共放送の使命と責任を果たします。台風や大雨による災害発生時には、放送で伝えている情報を、ホームページや携帯サイト、データ放送でも同時に発信していきます。また、近い将来に起きると予想されている東海、東南海、南海地震などの大規模地震や台風などの災害に備え、年間を通じて防災関連の企画や番組を放送し、防災・減災意識の向上につながるきめ細かな情報を継続して提供していきます。

○正確かつ迅速な選挙報道をめざします

第22回参議院議員通常選挙や各自治体の首長選挙などの選挙報道に万全を期します。県内の選挙結果をホームページやデータ放送も活用して正確かつ迅速に報道するとともに、選挙の争点や構図をわかりやすく伝え、いっそうの選挙報道の充実を努めます。

○地域の“いま”を取材・検証していきます

政権交代が実現し、時代の転換点にある“いま”を取材・検証していきます。予算配分の抜本的な見直しや、事業仕分けなどによる影響は三重県にも及んでいます。一方、長引く不況で疲弊する地域の経済、さらに私たちの命を守る地域医療の充実という課題に対して、新政権はまだ有効な処方箋を提示していません。これら地域の人々の生活に直結する課題を取り上げるとともに、新しい政権のもとで私たちの暮らしはどのように変わり、どこへ向かっていくのか、地域の“あす”について考えていきます。

○ “3-Screens” の展開を強化します

公開ホームページを一新し、内容の充実を図るとともに、若年層をはじめとした幅広い世代の視聴者とNHKが接する機会を提供し、接触者率の向上に努めます。また、番組との連動はもちろん、ホームページ・携帯サイト、データ放送・ワンセグデータ放送など、各デジタルメディア間のマルチ展開を強化し、視聴者層の拡大を目指します。

○ 「ふるさとにQ」で、視聴者と地域を応援します

平日午後6時台の地域情報番組内で去年4月から放送している「ふるさとにQ」では、毎月1つの自治体を順に取り上げ、視聴者からのお便りやメールで寄せられる情報をもとにその市や町の隠れた魅力や地域で頑張る人たちを紹介しています。3年間にわたって県内29市町を取り上げていく継続企画の2年目として、これまで以上に地域に深く密着し、視聴者と地域を応援していきます。また、独自コンテンツを開発したデータ放送を軸に、ホームページ、携帯サイトなど、放送以外のさまざまなメディアにおいても、内容の充実を図ります。

○ 伊勢神宮の遷宮をハイビジョンで継続して取材します

伊勢神宮では20年に一度の式年遷宮が3年後の平成25年に行われます。すでにさまざまな祭事は始まっており、準備は順調に進んでいます。日本人の古くからの生活に根ざした文化や技能の伝承、何気ない日々の暮らしに込められた伝統の広がり、継続して取材し、番組展開を目指します。

岐阜放送局

○地域放送局の存在感をさらに高めていきます

岐阜放送局は、平成22年9月に開局70周年の大きな節目を迎えます。地域と岐阜放送局の70年の歩みを見つめ直すとともに、今後の発展に向けた決意を新たに、記念となる特別番組やイベントを多角的に展開していきます。

○地域の“いま”を伝える地域放送番組の充実を目指します

平日午後6時台の地域情報番組は、粘り強い取材力と飽くなき探究心で番組内容を充実させ、県内の移り行く“いま”を伝えます。また、金曜午後7、8時台の地域放送番組では、地域の話題性ある題材を積極的に取り上げ、情報発信の先導役としての確固たる使命を果たすとともに、ふるさとの魅力を全面に押し出し、全国へも発信します。

○地域の課題に真正面から向き合います

政権交代は、岐阜県の人々の暮らし・産業にどのような変化をもたらすのか。また世界的な金融・経済危機や雇用環境の変化が、地域の産業にどのような影響を及ぼすのか。岐阜県の抱えるさまざまな課題に正面から向き合い、解決への道筋を探るとともに、雇用や医療、年金などの懸案事項についても多角的に報道し、公共放送の役割を果たします。

○地上デジタル放送への理解促進に努めます

集合住宅や受信障害対策共聴施設に向けた地域放送番組やミニ番組による周知広報の徹底など、残る大きな課題である「受信側」の対策を強化し、地上デジタル放送の普及・推進に努めます。またデータ放送では地域の特性に合った県民に役立つコンテンツを提供し、より利便性の高いデジタル放送サービスを実現します。

○迅速かつ的確な災害・緊急報道を実施します

地震、台風、豪雨、豪雪などの自然災害報道や、事件・事故の緊急報道にあたっては、迅速かつ的確に情報を提供し、県民の安心・安全な暮らしを守ります。不測の事態に備え、即時に適切な対応ができるよう万全を期します。またデータ放送や、ホームページでも逐一変化する災害状況の最新情報を詳細に伝え、県民の生命と財産を守ります。

○選挙報道に万全を期して取り組みます

第22回参議院議員通常選挙が予定されています。選挙報道にあたっては、政見・経歴放送や開票速報に万全を期し、有権者の判断のよりどころとなる選挙の争点や課題などの情報を公平中立な立場で伝えます。

○子育て支援キャンペーンをさらに強化します

3年目を迎える子育て支援キャンペーンでは、引き続き、子育てに役立つ情報や地域のサポート体制などを紹介していきます。さらに、子育て中の若い世代との接触を増やしながら、子育ての抱える課題やその改善の糸口を探るような番組作りに取り組んでいきます。

○地域スポーツの振興に貢献します

サッカーJ2の「FC岐阜」は、今季3年目のシーズンを迎えます。試合中継や地域情報番組のコーナーで活躍を伝えるほか、チームが地道に取り組む地域貢献活動や、クラブ経営の現状なども取り上げて、地域とスポーツのあり方を探っていきます。また高校野球岐阜大会や岐阜県サッカー選手権大会の中継など、県内で開催されるさまざまなスポーツを取り上げて、地域スポーツ振興に寄与します。

○県の宝“清流”をテーマに地域に活力を与えます

平成22年6月に「第30回全国豊かな海づくり大会～ぎふ長良川大会～」が開催されます。岐阜県は清流長良川をはじめ、豊かな海を育む水源に恵まれ、水と共生した暮らし・文化を有します。大会開催時には、開会式や式典の様様とともに、岐阜県が誇る清流、ふるさとの魅力を全国へ発信します。

平成22年度 中国地方向け地域放送番組編集計画

《基本方針》

政権交代による政策の転換が、私たちの暮らしに大きな変化をもたらそうとしています。また、長引く景気の低迷は地域経済や市民生活に暗い影を落としています。

このような社会状況だからこそ、中国地方のNHKは地域に根ざした多様な放送を通して、地域を元気にするための拠点となります。

人口流出や高齢化が進む中国地方は、国の公共事業や農業政策に依存する割合が高く、政策転換の影響を受けやすい地域です。中国5県の放送局は力を結集し、政策転換がもたらす新たな課題について1年を通して見つめ検証します。

また、視聴者や有識者とともに“地域の課題”や“将来像”を考える大型番組、独自の風土や暮らしがはぐくんだ“伝統文化”や“地域の魅力”を再発見する番組を充実し、ふるさとを応援します。

去年7月の集中豪雨では土砂災害など大きな被害が発生しました。中国地方には、土砂災害危険個所が約9万5千も集中しています。災害・緊急報道にあたっては、防災・減災に役立つ情報やライフラインの情報などを迅速・的確に伝えます。

デジタルメディアを積極的に活用し、視聴者との結びつきをいっそう強めます。双方向番組を充実し、視聴者が身近な情報や話題を発信できる場を提供します。とりわけ若い世代とともに作りあげる番組を開発し、接触者率の向上に努めます。

中国地方の各放送局は、こうした取り組みを通じて、地域に密着した多様なサービスを提供し、「放送局のちから」を発揮していきます。

《重点事項》

1. 地域の課題に向き合い、中国地方の未来を応援します

政権交代による政策の転換が中国地方の暮らしにもたらす影響を見つめ、検証します。また、地域が活力を取り戻すために何ができるのか、「地域再生」「地域創造」をテーマに視聴者や有識者と考えてきた番組をさらに発展させ、ふるさとの未来を応援します。

2. ふるさとの豊かな文化を見つめます

中国地方各地で多様な発展をとげている「神楽」を、その独自性をはぐくんだ歴史や風土とともに記録し、地域の文化を見つめ直します。また、各地で生き生きと暮らす人々や美しい自然などを訪ね、ふるさとの魅力を再発見します。

3. 災害・緊急報道で地域住民を守ります

鳥取県西部地震や芸予地震の発生から10年になります。地震・台風などの自然災害や事件・事故の緊急報道では、確かな情報をテレビ・ラジオでいち早く提供するほか、インターネットや携帯端末でも、最新情報をきめ細かく伝えます。また、災害・事故が残した教訓や課題を検証し、防災と再発防止に努めます。

4. 正確、迅速な選挙報道で、視聴者の信頼にこたえます

政権交代後初めての大型国政選挙となる第22回参议院議員通常選挙（任期満了日平成22年7月25日）では、有権者の判断のよりどころとなる情報を的確に伝えるとともに、正確で迅速な選挙報道に万全を期します。

5. 視聴者との結びつきをいっそう強めます

デジタルメディアを活用する参加型の番組を通して、視聴者との結びつきをより強めます。また、これまで培ってきた大学生とのネットワークを生かした若い世代向けの番組など、視聴者とともに作りあげる番組を充実させます。

6. 地域のスポーツを盛り上げます

サッカー、野球など地域に根ざしたスポーツを中継や番組で取り上げ、盛り上げます。また、ひろしま男子駅伝や中国5県で開催される全国中学校体育大会も積極的に伝え、スポーツファンの期待にこたえます。

《各局の重点事項》

広島放送局・福山支局

○広島県が直面する課題をくわしく伝えます

16年ぶりに知事が交代し、新しい県政がスタートしました。財政再建問題や鞆の浦の架橋問題、広島西飛行場の存廃問題など、広島県が直面する課題を掘り下げ、わかりやすく伝えます。

○核兵器廃絶に向けて具体的な行動を提言します

4月には核安全保障サミット、5月には核拡散防止条約の再検討会議が予定されています。核兵器廃絶の機運が高まる中、国際社会が具体的な行動に移るために何が必要なのか、また私たち市民に何ができるのか、視聴者とともに考え、メッセージを発信します。

被爆から65年が経過し、被爆体験を確実に次の世代に伝えていくことが喫緊の課題になっています。8月6日の広島・原爆の日を中心に、広島が体験した核兵器の恐ろしさや、核兵器廃絶を訴える被爆者の切実な声を伝えます。

○地域の文化・スポーツを応援します

地域が育んできた伝統芸能「神楽」や中国地方唯一のプロ・オーケストラである広島交響楽団の魅力を紹介します。

新監督のもとで新たなスタートを切った「広島カープ」や、アジアチャンピオンズリーグに初めて出場する「サンフレッチェ広島」などの戦いを伝え、地元チームを応援します。

○視聴者とのふれあい、つながりを強めます

番組への投稿やカープ戦での応援メッセージなど、デジタルメディアの双方向性を生かした視聴者参加型の番組を充実させます。

また、夕方の情報番組では年に2回、局外の特設スタジオから公開生放送を行い、その地域ならではの話題をたっぷり伝え、視聴者とのつながりを強めます。

○地上デジタル放送のさらなる普及に努めます

地域の暮らしに役立つデータ放送など、地上デジタル放送ならではのサービスで、視聴者の利便性の向上を図ります。一方で広島県には、山間部・島しょ部を中心に地上デジタル放送の難視聴地域が数多くあります。平成23年の完全デジタル化を控え、番組などを通じた周知広報に努めます。

岡山放送局

○地域放送番組をさらに充実させます

平日午前11時台の地域情報番組は、生活に密着した情報や地域の情報など身近な話題をお届けします。また午後6時台のニュースでは、その日の出来事を詳しく伝えるほか、政権交代の市民生活への影響や自治体の財政危機など岡山県内の“今”を丹念に取材し、将来に対する展望を示します。

○金曜夜間を充実・強化します

金曜夜間は地域の魅力や直面する課題に正面から向き合います。一つのテーマを多面的に取り上げ、岡山の魅力を再発見してもらえる番組や、地域の課題を深く掘り下げ、将来に向けた解決策を示す番組などをお送りします。

○公正・正確な選挙報道を行います

政権交代後初の国政選挙となる第22回参議院議員通常選挙がこの夏おこなわれます。選挙報道と政見放送にあたっては、有権者の選択のよりどころになる公正で正確・迅速な放送を実施し、視聴者の信頼にこたえます。

○緊急報道・防災報道に力を入れます

去年、岡山県北部は竜巻や台風豪雨により深刻な被害をうけ、NHKでは災害直後から放送を通し復興の一助になるよう努めてきました。引き続き県民の生命・財産を守るため、普段から災害の防止に役立つ情報を発信するとともに、災害の発生の際には正確できめ細かな情報を提供します。

○開局80年を記念した取り組みで視聴者とのつながりを強めます

岡山放送局は来年2月に開局80年の節目を迎えます。これにあわせて80年の感謝を込め、地域の人々の心に訴えかけ記憶に残る特集番組を放送したりイベントを開いたりして、視聴者とのつながりを強めます。

○子どもに関するキャンペーンを展開します

将来を担う子どもの健やかな成長を支援し、地域を元気にするキャンペーンを展開します。ニュースや県域番組で、子どもたちを巡る情報や課題を集中的に取材・放送するほか、データ放送やホームページなども利用し、キャンペーンの関連情報を伝えます。

○スポーツ放送を通して岡山を元気にします

サッカーJ2「ファジアーノ岡山」から「高校総体」まで、プロ・アマチュアをとわず幅広くスポーツ競技を放送し、スポーツファンの期待と関心にこたえます。また、年間を通じて市民スポーツの取り組みなども取材し“岡山の元気”を応援します。

○デジタルサービスを充実させ接触者率向上を目指します

NHKの放送を普段見ない人たちにもアクセスしてもらえるコンテンツを作り、ホームページや携帯サイト、データ放送で展開します。デジタルサービスを充実させることで、接触者率向上を目指します。

○地上テレビ放送の完全デジタル移行に向け、いっそうの普及促進に努めます

アナログ停波を来年7月にひかえ、デジタル放送への移行は正念場をむかえます。岡山放送局は、お知らせや県域放送番組などで周知するほか、地上デジタル放送の魅力を直接伝えるイベント「地デジわくわく広場」を県内各地で実施し、デジタル放送の普及促進に全力をあげて努めます。

松江放送局

○地域の課題に即応した放送を強化します

厳しい経済・雇用、医師不足、人口減少など島根県は多くの課題に直面しています。生活者の視点から課題を検証していくとともに解決の手だてを探る的確な情報を放送します。

また、政権交代により地域や暮らしがどう変わっていくのかを掘り下げて伝え、地域の放送局としての役割を果たします。

○接触者率のさらなる向上を目指します

若年層が積極的に参加できるコンテンツを開発・展開し、また、高齢者向けには生きる糧となり、希望が持てる番組を制作し、幅広い世代に親しまれる放送やイベントを展開します。

新たな視聴者を開拓し、相互に交流できる場としてインターネットや携帯端末など放送以外のメディアを積極的に活用します。視聴者参加の充実や放送と公開ホームページの連動の強化など、メディアの特性を生かしたきめ細かなサービスを拡充させ、“いつでも、どこでも、もっと身近に”を実現します。

○新しい地域活性化の行方を追います

島根県各地で、これまでにない地域活性化の取り組みが始まっています。中山間地に人材を送り込み、「人」が活性化の礎となり地域の未来を切り開こうとする新たな動きです。地域主権が叫ばれるなか、その可能性と課題を多角的な視点で伝えます。

○正確・迅速・的確な報道と防災の啓発に努めます

県民に関心の高い事件や第22回参議院議員通常選挙では正確で迅速な報道に努めます。2市町で行われる首長選挙においても地域の課題や選挙の争点を詳細にわかりやすく伝え、視聴者の信頼に応えます。また、自然・原子力災害に備えた緊急報道体制を強化するとともに、県民の防災意識の向上や防災に有効なインフラ整備につながる番組制作に取り組みます。

○島根の文化・スポーツを応援します

ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）の生誕160年、来松120年にあたる今年、関連する番組やイベントを展開します。

島根の豊富な伝統文化・芸能に子どもたちが触れ合い、学び、楽しめる参加型のイベントも企画します。

また、プロバスケットボール・bjリーグに今年度参入する「島根スサノオマジック」について、県内初のプロスポーツの胎動、迫力あるスポーツシーンを伝えるほか、大相撲で活躍している島根県出身の力士・隠岐の海や女流棋士の里見香奈さんを視聴者とともに応援します。

鳥取放送局・米子支局

○地域の課題に引き続き向き合い、地域の拠点として力を発揮します

平日午後6時台と金曜日夜間の番組を2本柱に、地域の課題に正面から向き合います。新政権の事業見直しによる県内経済や生活への影響、出口が見えない景気低迷や雇用不安など、ニュースで伝えた情報をより深く、わかりやすく掘り下げて番組に展開し、「NHKだからできる地域放送」をいっそう充実します。

○鳥取県西部地震から10年、防災をあらためて検証します

平成12年10月6日、マグニチュード7.3を記録し県西部に大きな被害をもたらした鳥取県西部地震から平成22年でちょうど10年。地震を教訓に進められてきた防災対策をあらためて検証するとともに、県民の防災意識の高揚を図ります。また、NHKの使命を果たすため緊急報道への備えを進めます。

○夏の参議院選挙では迅速かつ的確な報道を行います

平成22年は4月に鳥取市長選挙（投票日 平成22年4月11日）、夏には政権交代後初めての大型国政選挙となる第22回参議院議員通常選挙が行われます。開票速報などで迅速かつ的確な報道を行い、県民の関心と信頼に応えます。

○鳥取の魅力を全国に発信します

鳥取の豊かな自然や伝統文化、ものづくりや町おこし、人の魅力を引き続き積極的に取材して全国に発信し、地域の期待に応えます。

○3-Screens をさらに充実し、視聴者層の幅を広げます

地元出身の漫画家の妻の自伝が原案の連続テレビ小説「ゲゲゲの女房」の放送に合わせ関連ホームページを開設するなど、インターネットや携帯端末等放送以外のメディアのコンテンツをさらに充実します。また、若い世代をターゲットにした県域の新番組を開発し、放送とほかのメディアとの連動性をいっそう強めて接触者率の向上に努めます。

○J2入りを目指す「ガイナレ鳥取」を応援します

悲願のJ2入りを目指すサッカーJFLの地元チーム「ガイナレ鳥取」。その戦いぶりやサポーターの活動などを積極的に取材して伝えるとともに試合の中継も随時行い、県民の熱い思いに応えます。また、高校野球など県民の関心の高いスポーツの報道にも力を入れます。

○イベントを通じて視聴者とのふれあいを強めます

NHKならではのイベント「朗読シアター」と「作品コンクール」は演出や内容などを見直し、支持層の拡大を目指します。また、イベントでは接触者率を高めたい若い家族連れが喜ぶサービスを工夫し、支払率の向上にもつながるよう努めます。

○地上デジタル・BSデジタルの普及に努めます

目前に迫った地上テレビ放送の完全デジタル移行。送受信技術の職員がふんする“地デジ課長”が地上デジタル放送の準備についてわかりやすく説明するコーナーを県域放送で定期的に放送したり、鳥取ならではのスポットを随時制作したりして普及に努めます。あわせてBSアナログ放送の終了も周知し、BSデジタルの普及にも努めます。

山口放送局・下関支局

○地域放送番組を刷新します

地域の課題に正面から向き合い、「山口のNHK」の存在感をこれまで以上に高めるため、地域放送番組の全面的なリニューアルを行います。夕方6時台は、「徹底的に地域にこだわる」「やさしく、わかりやすく」をキーワードに、ライブ感と視聴者参加感あふれるニュース・情報番組へと生まれ変わります。また、地域放送番組の時間に限らず、随時「地域特集」を設けるなど、機動性に富んだ編成で、視聴者の「知りたい」や「感動したい」にタイムリーに応えます。

○地域の安全と安心に貢献します

昨年7月21日の大雨災害の教訓を生かし、災害が発生するおそれがある場合には、インターネットや携帯端末など放送以外のメディアも駆使してきめ細かな情報を迅速に提供し防災に努めます。災害・事故の発生時には全力で緊急報道に努め、公共放送の使命を果たします。また、交通事故死亡者数人口比率ワースト1である山口県のNHKとして、県警とも協力しながら交通事故防止キャンペーンを展開します。

○地上デジタル普及を促進するためのコンテンツを開発します

山口県では、今後デジタル化により電波が届かなくなる地域への「新たな難視聴」対策など、受信環境の整備が急務となります。そこで、地域の視聴者により良く浸透する「地上デジタル普及番組」やクラッチなどを制作・放送するほか、地上デジタル放送が持つ機能を活用した魅力的なコンテンツを開発し、さまざまなメディアで展開します。

○正確、公正、迅速な選挙報道を実施します

各自治体の首長・議員選挙に加え、第22回参議院議員通常選挙が実施されます。的確な選挙報道で視聴者の信頼に応え、選挙結果がもたらす地域への影響を検証します。

○放送と連動したイベントで、視聴者との結び付きを強化します

公開番組や山口県ゆかりの大河ドラマ「龍馬伝」関連など、さまざまなイベントを県内各地で実施し、より多くの方々と触れ合い、地域の活性化にも寄与します。また、山口放送局は平成23年4月に開局70周年を迎えます。70周年を契機に地域とNHKの結び付きをさらに強めるため、記念事業に向けた準備を進めます。

○「おいでませ！山口国体」「おいでませ！山口大会」を盛り上げていきます

平成23年秋、「第66回国民体育大会」と「第11回全国障害者スポーツ大会」が山口県で開催されます。「地デジで国体を見よう！」を合言葉に、翌年に迫った大会を放送やイベントを通じて、地域と一体となって盛り上げていきます。

○山口県と姉妹提携を結んでいる韓国慶尚南道との友好を深めます

関釜フェリー就航40周年、NHK山口放送局とKBSチャンウォン放送局の姉妹提携20周年を迎える今年、ニュースや番組で交流の歩みを振り返るほか、これからの友好発展について視聴者とともに考えます。

平成22年度 九州地方向け地域放送番組編集計画

《基本方針》

平成21年8月の衆議院議員総選挙で歴史的な政権交代が行われました。政策の変化が、沖縄・普天間基地の移設問題や、ダムや道路建設、諫早湾干拓など公共事業をめぐる問題をはじめ、地域社会にさまざまな影響を及ぼしています。また、世界的な経済不況の余波により、地域経済は依然として低迷しています。加えて、記録的な集中豪雨などの自然災害や、新型インフルエンザのまん延など、私たちの暮らしを脅かす事象は後を絶ちません。

一方、平成23年3月には九州新幹線鹿児島ルートが全線開通する予定で、経済や観光の分野に大きな変化をもたらすことが予想されます。

このような社会状況の下で、九州・沖縄の各放送局は、地域を元気にするための拠点として、視聴者の要望に応じて地域放送の充実・強化を図るとともに、地域から全国に向けた情報発信にも積極的に取り組みます。あわせて、インターネットや携帯端末など放送以外のメディアを活用したサービスも推進します。

また、第22回参議院議員通常選挙(任期満了日 平成22年7月25日)をはじめとする各種の選挙にあたっては、万全の態勢で臨みます。

さらに、平成23年7月に迫った地上と衛星のテレビ放送の完全デジタル化に向けて、中継局など送信設備の整備を着実に進めるとともに、デジタル放送受信のための的確な情報の提供を行い、円滑な移行に万全を期します。

《重点事項》

1. “いのち”と“暮らし”を守る的確な情報の提供

景気の低迷による経済や雇用の問題をはじめ、地域社会は、少子高齢化、医療・福祉、教育、環境など多くの課題を抱えています。一方で、生活を脅かす事件や人命に関わる大きな事故も後を絶ちません。台風や地震、局地的な集中豪雨など、自然災害への備えも重要です。新型インフルエンザの流行など新たな脅威への適切な対応も求められています。

九州・沖縄の9放送局は、ネットワークと機動力を生かして、迅速で的確な災害報道や緊急報道に取り組むとともに、暮らしに役立つ生活情報の提供に努めます。また、災害時、緊急時にはインターネットのほか、データ放送やワンセグデータ放送でも情報を伝えます。

2. 地域に密着した放送の充実と多様なメディア展開

平日午後6時台のニュース番組や金曜午後7・8時台を中心に、それぞれの地域の特性に応じたサービスを展開します。

午後6時台のニュース番組では、地域の課題に向き合うとともに、暮らしに役立つ情報なども交え、内容の充実を図ります。

金曜夜間は、九州・沖縄地方に共通する課題をタイムリーに取り上げ解決策を探る報道番組を放送するほか、紀行番組や地域を元気にする公開番組、アジアで活躍する人物にスポットをあてたドキュメンタリー、喫緊の課題を取り上げる生放送の長時間討論番組など、多彩な番組を放送して、幅広い視聴者の要望に答えていきます。

さらに、テレビやラジオのみならず、データ放送やインターネット、携帯端末などにも、それぞれのメディアの利用形態にふさわしい形でさまざまなコンテンツを展開します。

3. 地域の特徴を生かした多彩な全国発信

“オヤジバンド”のコンテスト「熱血！オヤジバトル」や、アジアと九州・沖縄の意外な結びつきを紹介するラジオ番組、沖縄音楽とトークを楽しむラジオ番組を引き続き制作するほか、豊かな自然や、文化・歴史など地域の魅力を紹介する番組を積極的に全国に発信します。

さらに、地域の課題をNHKが持つ全国のネットワークを生かした取材で発展させ、ニュース番組や情報番組で全国に向けて発信します。

4. 各種選挙への万全な対応

第22回参議院議員通常選挙や沖縄県知事選挙（任期満了日 平成22年12月9日）、宮崎県知事選挙（任期満了日 平成23年1月20日）、福岡市長選挙（任期満了日 平成22年12月6日）、北九州市長選挙（任期満了日 平成23年2月19日）のほか、各種選挙については、有権者の判断のよりどころとなる、信頼できる確かな情報の提供に努めます。

5. 戦争と平和への取り組み

被爆地・長崎や唯一住民を巻き込んだ地上戦の舞台となった沖縄をはじめ、九州・沖縄各県にはいまでも戦争の深い傷が残っています。体験者の証言などを通して戦争の実像に迫り、その悲惨さを後世に伝え、平和へのメッセージを発信していきます。

6. アジアに関する情報の発信

上海万博や広州でのアジア競技大会など、高い経済成長が続く中国で大きなイベントが相次ぎます。地理的・歴史的・文化的にもアジアと深いかかわりを持ってきた地域として、アジア各国放送機関との連携を生かして、九州・沖縄の視点で捉えたアジア情報を、地域や全国に向けて積極的に発信していきます。また、日本を飛び出し、アジア各地で活躍する九州・沖縄出身者を追うドキュメンタリー番組の制作にも取り組みます。

7. 地域の文化・芸能・スポーツの振興

九州・沖縄の各地には、長い歴史と伝統の中で育まれてきた個性豊かな文化があります。それらを継承しようとする人々や、新しい文化・芸能を創造していこうとする人々を積極的に取り上げ、地域文化・芸能の振興、発展に寄与します。

また、スポーツが盛んな九州・沖縄において、関心の高いプロ野球やJリーグをはじめ、高校野球、高校駅伝などの各種スポーツについても広く伝え、スポーツの振興に寄与します。さらに、今年開催される“美ら島沖縄総体2010”では、競技中継とともに、開催に向けた地域の取り組みについても伝えます。

8. 視聴者とともに作り上げる番組・イベント

市町村へ出向いて実施する公開番組をはじめ、会館のスタジオやホールを活用した番組・イベントなど、幅広く視聴者とふれあう地域イベントを積極的に実施して、地域を元気にする取り組みを行います。平成22年の大河ドラマ「龍馬伝」では、長崎県が舞台の一つとなります。視聴者のみなさまに大河ドラマをより楽しんでいただくような番組やイベントを展開していきます。

9. 完全デジタル化への円滑な移行に向けた取り組み

平成23年7月の地上と衛星のテレビ放送の完全デジタル化を間近に控え、円滑な移行のための諸施策を放送やイベントを通じて多角的に展開します。

アナログ放送受信者がデジタル放送受信に変更するための方法や留意点を、さまざまな番組でていねいに周知し、理解の促進を図ります。

あわせて、「2010 FIFAワールドカップ南アフリカ」など大型イベントをはじめ、地域放送において、高画質・高音質のデジタル放送の魅力を発揮した番組を積極的に放送するとともに、データ放送による身近で役に立つ多様なコンテンツの提供、視聴者とのつながりを深める双方向番組の充実を図るなど、地上デジタル放送の魅力を最大限にアピールします。

《各局の重点事項》

福岡放送局

- 平成22年12月6日に、福岡放送局は開局80周年を迎えます。過去の映像をもとに、福岡の歩みを振り返る番組を1月から毎月放送し、12月には特集番組を放送します。さらに、地域ドラマの制作に取り組むほか、長時間のラジオ特集番組を放送するなど、開局80周年に関連した番組やイベントを多彩に展開し、“地域を元気にする拠点”としての存在感を高めます。
- 平日午後6時台のニュース番組では、福岡県のその日の動きを掘り下げて伝えます。また、地域経済の動向や雇用の問題をはじめ、医療・福祉、教育など、暮らしに直結した問題を積極的に取り上げ、地域視聴者の関心に応じていきます。あわせて、トレンド情報や行楽・イベント情報など、豊かな暮らしに役立つ情報も伝えます。
- 博多・鹿児島中央間を1時間20分で結ぶ九州新幹線鹿児島ルートが、平成23年3月に全線開通します。鹿児島中央から新大阪までを結ぶ新幹線が運行を始め、沿線には新しい駅が誕生し、九州の交通事情は大きく変わります。また、これにあわせて新博多駅ビルが開業し、新たに百貨店も進出するなど、福岡・九州の経済にも大きな影響を与えます。市民の関心も高く、暮らしに直結する福岡の経済の動きについて、ニュースや番組の中でわかりやすく解説していきます。
- 福岡市長選挙をはじめ、各種選挙については、正確かつ迅速な報道に万全を期し、地域のみなさまの関心・信頼に応えるとともに、選挙の争点や地方自治体の課題など有権者の判断のよりどころとなる情報を、公平かつ公正に伝えます。
- 壁にぶつかりながらも、困難を乗り越えようとひたむきに生きる人々の素顔を描くヒューマンドキュメンタリー番組を放送するなど、地域に息づく人の魅力やその営みを積極的に紹介します。
- 毎年多くの参加者や観客で盛り上がる「博多祇園山笠」、「大濠花火大会」など、県民の関心が高い祭りや伝統行事については、臨場感あふれる生中継で、その魅力を伝えていきます。
- 「福岡ソフトバンクホークス」やサッカーJ2「アビスパ福岡」、バスケットボールbjリーグ「ライジング福岡」、大相撲などのプロスポーツや、高校野球、高校駅伝など、視聴者の関心が高いアマチュアスポーツの情報を番組やニュースで伝え、地域のスポーツ振興に寄与します。

北九州放送局

- 「地域の力」となる放送局を目指して、視聴者の関心や期待に応える地域放送の充実に努めます。午後6時台のニュース・情報番組と午後8時台のニュース番組、そして昨年度から始めた金曜日午前11時台の週末情報番組などで、生中継や現場リポートを積極的に取り入れながら、視聴者がいま必要としている情報をきめ細かく伝えます。
- 「ものづくりのまち」北九州市と周辺地域では、厳しい経済環境が続き、ホームレスの若年化など深刻な課題が浮かび上がっています。また中央で政権が交代し、空港拡張などの大型プロジェクトや地方財政、福祉や医療への影響がどうなるのか、地域の関心を集めています。こうした地域課題に向き合い、金曜夜間の地域特集番組などを通して、じっくりと掘り下げて報道するとともに、全国に発信していきます。
- 放送を通じて地域の文化、スポーツの振興に貢献し、地域を元気づけます。特色ある祭りや住民参加のコンサートなど、地域で開かれるさまざまなイベントに参加者とともに盛り上げ、多角的に伝えます。また、J2昇格を果たした地元サッカーチーム「ギラヴァンツ北九州」を応援し、九州各地のチームとの対戦を放送します。
- 台風や地震など、災害から地域の人々の生命、財産を守るため、正確、迅速な緊急報道体制の充実に努めます。福岡放送局、山口放送局など隣接する放送局との連携を深め、防災についての情報をきめ細かく提供するほか、災害発生時には、避難先や医療機関情報などの安心・安全情報を、ニュース番組のほかデータ放送を通して詳細に伝えます。
- みやこ町長選挙（任期満了日 平成22年4月22日）や北九州市長選挙（任期満了日 平成23年2月19日）など、各地の選挙について、争点や地域に与える影響などを多角的に報道します。
- 地上デジタル放送のデータ放送、インターネットや携帯端末向けサービスの内容について、地域情報の充実に図り、いつでもどこでも、より身近で利用しやすいNHKサービスを目指します。また、地上テレビ放送の完全デジタル化に向けて、スポットPRや独自イベントを通して、一層の周知を図ります。

熊本放送局

- 平成23年3月に迫った九州新幹線鹿児島ルート全線開通と平成24年の熊本市の政令指定都市化を控えて熊本県はいま、産業・文化の活性化、認知度向上にとって最大のチャンスといえる時を迎えています。熊本放送局は、未来へ向けてのターニングポイントに立とうとしている熊本を、さまざまな放送とイベントで応援するとともに、地域の課題をしっかりと見つめる放送局をめざします。
- 大きく動き始めた水俣病の問題と川辺川ダム問題についてはさまざまな番組で重点的に伝えていきます。また、熊本市の政令指定都市化に伴う変化や、不況による雇用不安、危機的状況の県財政、環境や食の安全への不安、政権交代の影響など多くの問題についても、しっかりと伝えていきます。
- 九州新幹線鹿児島ルート全線開通の前後には、関係局とも連携しながら新幹線が熊本の経済、観光、文化などにどのような未来をもたらすのか、特集番組やニュースで伝えます。
- 平日午後6時台のニュース・情報番組、金曜午後7時台の地域放送番組、平日午前11時台の生活情報番組の“地域放送三本柱”は、地域の視聴者によりいっそう信頼され親しまれるようにさらに内容の向上を図ります。また、地域番組で放送した内容については、積極的に全国発信し、問題の解決を日本全体の視野で考えるとともに、熊本の魅力を全国に紹介します。
- 平成22年7月には第22回参議院議員通常選挙が予定されていることに加え、12月2日には熊本市長が任期満了を迎え、平成24年に誕生する政令指定都市としての熊本市の市長が決まります。正確で迅速な選挙報道に万全を尽くします。
- 熊本出身の著名人に熊本の魅力、活力を語ってもらうミニ番組「くまもと大好き！」と新しい視聴者参加型番組「玄海一座」を中心に、熊本の魅力を再発見し、“地域の応援団”としての熊本放送局を視聴者に訴えていきます。
- 台風や大雨、地震、阿蘇山の火山活動については、“一人の犠牲者も出さない”を合い言葉に防災や減災に役立つ情報を提供するための体制を強化し、災害時にはニュースを機動的に編成するほか、データ放送、インターネットも活用してきめ細かな情報を提供します。
- 正念場をむかえる地上と衛星のデジタル放送の普及・充実に向けての取り組みをさらに強化していきます。また、インターネット、データ放送の内容の充実を図り、“いつでも、どこでも、もっと身近に”の実現に向けて取り組みます。

長崎放送局

- 産業の停滞による人口の流出、地域間格差の拡大と地域を取り巻く状況は厳しさを増しています。政権交代で諫早湾干拓や九州新幹線長崎ルートなどの公共事業がどうなるのか、夏の第22回参議院議員通常選挙で県民がどのような判断を示すのか注目されます。また景気後退は長崎の観光にも打撃を与え、経営が悪化した大型観光施設をどう支援するか大きな焦点となっています。長崎放送局はこうした地域の動きをタイムリーに伝え、放送を通じて地域を応援します。
- 午後6時台のニュース・情報番組は日々のニュースや生活情報をバランスよく放送します。広いスタジオを生かしたゲストとの対談、寸劇や演奏、旬の食材情報など、多様な演出で県民に親しまれる番組を目指します。金曜夜は長崎の時間として紀行番組、ヒューマンドキュメンタリー、ジャーナル番組など多彩な25分番組を放送するほか、視聴者参加型の新しい大型番組を放送し、地域の課題をともに考え解決策を探ります。
- 大河ドラマ「龍馬伝」がスタートしました。長崎は坂本龍馬が亀山社中や海援隊を率いて時代を動かした重要な舞台です。午後6時台の情報番組で毎週関連のコーナーを設けて放送やイベントでドラマへの関心を高めてもらう一方、長崎の情報を全国発信し観光を活性化します。また、地域で頑張る企業や離島の魅力を継続的に取り上げるなど、年間を通して地域を応援する番組を重点的に放送します。
- 長崎は被爆から65年を迎えます。“核兵器の無い世界”を目指すアメリカのオバマ大統領が登場し、5年ぶりに開かれる核拡散防止条約・再検討会議で世界が本当に核廃絶に向けて動き出すか注目されています。8月の平和祈念式典中継を中心に核廃絶と平和を訴える被爆地の思いを全国に届けます。また、高齢化が進む被爆者の体験と被爆の実相を伝える証言シリーズを引き続き放送し、ホームページでも公開します。
- 平成2年の雲仙・普賢岳の噴火から20年。長崎は過去に大規模な噴火災害や大水害を経験し、また、傾斜地が多く地震への備えも求められています。災害時には機動的な編成で必要な情報を迅速に伝えるとともに、雨の季節の前などには視聴者に役立つ防災情報を適切に放送します。
- 「長崎くんち」、「YOSAKOI させぼ祭り」など県南・県北の代表的な祭りをハイビジョンの迫力ある映像で中継し、大詰めを迎えている地上デジタル放送の普及を促進します。また、高校総体、サッカーJFL「V・ファーレン長崎」など地域のスポーツや、ラジオ第1放送の討論番組、FM放送のコンサート番組なども継続して編成し、NHKへの接触者率を高めるトライアルを続けます。

鹿児島放送局

- 南北600キロ、東西270キロに及び鹿児島県は、シラス土壌の台地、南西に連なる島々、活発な火山があり、台風、大雨、地震、火山など、さまざまな自然災害のおそれがあります。県民を守る「防災放送局」として情報をきめ細かく伝え、防災意識が高まるような放送に努めます。特に、平成21年に観測史上最多の548回爆発した桜島の火山活動関連の情報をテレビ・ラジオに加え、インターネット、データ放送も活用して多角的に伝えます。
- 平日午後6時台のニュース・情報番組では、鹿児島でその日におきた出来事のほか、地域の課題や問題点を深く切り込みます。視聴者の関心が高いスポーツ情報を随時伝えるほか、生活に密着した気象情報は、気象予報士がわかりやすく解説します。また、県内各地の魅力ある人々や豊かな自然も紹介します。
- 金曜夜の番組では、午後7時30分からは、地域の課題に正面から向き合うほか、真摯に生きる人々を見つめます。また、午後8時からは、県内各地の人々の暮らしぶりや笑顔を紹介して視聴者に地域の元気を伝えます。
- 平成23年3月に九州新幹線鹿児島ルートが全線開業し、鹿児島から青森まで新幹線がつながります。新幹線の全線開業が、鹿児島の経済、観光、地域社会や文化などに、どのような影響を与えるのかを特集番組やニュースで伝えます。
- 平成22年度には、3町が合併して発足する始良市の市長選挙が4月25日に行われる見通しです。出水市（投票日 平成22年4月18日）と垂水市（任期満了日 平成23年1月26日）でも市長選挙が行われます。平成22年夏には第22回参議院議員通常選挙が行われます。鹿児島放送局では通常のニュースはもちろん、データ放送、インターネットでも情報をきめ細かく伝え、正確で迅速な選挙報道をおこないます。
- 世界的な不況の影響で工場閉鎖が相次ぎ、雇用不安も高まっています。中央との格差が広がる中で鹿児島県は、県民所得が全国で40位台と低く、地域経済の活性化が大きな課題です。特に、過疎化や高齢化が進む大隅半島や奄美大島をはじめとする離島では、農林業や畜産業、漁業の1次産業のブランド化をはじめ、地域密着で生き残りを図る企業も出てきています。地域活性化の新しい動きを全国に発信して、地域を元気にしていきます。

○平成22年10月に鹿児島放送局は、開局（ラジオ放送開始）75周年を迎えます。これを記念して放送会館を利用したラジオの公開全国放送や放送会館の公開を行い、ラジオ番組とイベントを連動させて視聴者とのふれあいを深めます。

宮崎放送局

- 宮崎をより元気にする放送局を目指す宮崎放送局は、平成22年度も地域密着・地元貢献を、放送を通じて展開します。まず、「みやざきスペシャル」の内容・放送本数を見直し、大幅に増やします。医療や農業、景気・雇用、自殺問題、交通網整備、観光浮揚など、現在の宮崎県が抱えるさまざまな課題を年間シリーズで取り上げ、現場からのレポートを交えながら、解決策を探っていきます。宮崎放送局の総力を結集した見応えのある番組を目指します。
- 骨太な大型番組・新しい番組開発に挑みます。地球環境の保護の高まりの中、宮崎は「太陽エネルギー」の利活用に官民あげて踏み出しました。産業創生の期待が高まる太陽光発電の可能性を、番組制作やシンポジウム開催などを通して、多角的に見つめます。また、若者向け番組「ティーンズナビ」では双方向の演出を取り入れるほか、8月に宮崎県下一円で開かれる高校文化部の祭典「第34回全国高等学校総合文化祭」を積極的に支援します。
- 「スポーツランドみやざき」にふさわしく、宮崎放送局は“スポーツ”を応援していきます。宮崎県内に初めて誕生した待望のプロバスケットボールチーム「宮崎シャイニングサンズ」を追い、bjリーグ秋の初戦を中継放送します。また、サッカーJFL傘下の「ホンダロック」の試合の中継や甲子園を目指す高校球児の熱戦の模様、県内各地で開催されるマラソンや駅伝大会をきめ細かく伝えます。
- 長い間、宮崎県民に親しまれてきた平日午後5時台の地元密着・生活情報番組は4月からは毎週金曜日の放送にします。「県民が自ら出演し情報や話題を発信する」という番組コンセプトは継承しつつ、これまで以上に中身の濃い内容で、元気な宮崎人を紹介していきます。
- 平日午後6時台のニュース・情報番組は内容をリニューアルし、さらに身近で親しまれる番組を目指します。記者レポートや、生活に密着したさまざまな情報をわかりやすく伝えるコーナーなど、多彩な演出で届けます。
- 毎年のように常襲する台風や予測される日向灘地震に備え、防災に関する報道をさらに充実させます。災害情報はテレビ・ラジオ・データ放送・インターネットなどさまざまな手段を通じて、宮崎の皆さんに素早く正確で詳しい情報を伝えていきます。また、平成22年度も民放と共同で防災のラジオ特番を制作します。

○今年夏の第22回参議院議員通常選挙や宮崎県知事選挙はもちろんのこと、宮崎県内で行われる10余りの首長選挙なども正確・迅速に報道します。

大分放送局

- 大分放送局は、「地上デジタル放送中継局」の整備を、平成22年12月末までに完了する予定です。こうして、いよいよ本格的な地デジ時代を迎える準備が整うこととなります。平成22年は、地上テレビ放送の完全デジタル移行に向けての最後の年です。今後は、インターネットや携帯端末等、放送以外のさまざまなメディアを使う“3-Screens”など「新しい時代の放送サービス」の充実を図るとともに、番組やイベントなどを通して地上デジタル放送の魅力を伝え、さらに普及促進に向けた周知、広報活動に積極的に取り組んでいきます。
- 午前11時台の情報番組、午後6時台のニュース番組、金曜午後7時30分からの「地域放送の3本柱」、イベントなどを通して、地域の活性化に貢献し、新たに若者向け番組を開発するなど、大分を元気にする拠点となる放送局を目指します。
- 午前11時台の情報番組のいっそうの充実に努めます。視聴者に役立つ身近な暮らし情報を発信することで、視聴者によりいっそう信頼され、親しまれる番組としてさらに内容の充実を図ります。またインターネットやデータ放送の連携を図り、大分の新鮮な生活・文化情報の発信をより強化し、特に、主婦や高齢者に役立つ生活情報を伝えていきます。
- 午後6時台のニュース・情報番組のいっそうの充実に努めます。地域のニュースを中心に、県民の関心の高いさまざまな話題を発信します。CATV各局との連携を強化し、よりきめ細かな情報を提供していきます。また、視聴者から寄せられたビデオを紹介するなど、地域に密着した親しみのもてる番組づくりに努めます。そして、県内各地を巡る中継キャラバンを実施するなど、視聴者とふれあうとともに、地上デジタル放送の普及・充実に向けての取り組みを継続し、“いつでも、どこでも、もっと身近に”の実現に向けて取り組みます。
- 月に1度の金曜午後7時30分と8時からの地域放送では、自然や文化、地域の課題など“大分ならではの”のテーマに向き合い、県内に向けて発信するとともに、大分の魅力を全国に向けて発信します。また、さまざまな地域行事やイベントと連動した特集番組の制作など、放送を通して地域文化の発展を応援します。
- サッカーやバスケットボール、バレーボールやフットサル、高校野球や高校駅伝、マラソンといった視聴者の関心が高いプロやアマチュアのスポーツ情報を、中継や企画番組、ニュースなどで伝え、地域のスポーツ振興に寄与します。

佐賀放送局

- 平日午後6時台のニュース・情報番組を充実・強化します。国内初のブルサーマルが行われている玄海原子力発電所の動きを含めた原発・エネルギー問題、諫早湾干拓訴訟をはじめとする有明海の再生問題など、佐賀県が直面する課題について、記者解説や特集企画で多角的な視点で掘り下げます。また、雇用不安や医療崩壊、暴力団進出など、地域の安全・安心を脅かしている問題についてきめ細かく伝えます。
- 大雨や台風、地震などの災害や事件・事故の緊急報道に万全を期すとともにインターネット、データ放送も活用し、県民に役立つ情報を迅速に伝えます。また、災害時の生活情報など、いざという時に頼りになるラジオを認識してもらうため、佐賀県の民放ラジオ局と合同で制作する「3局合同防災特集」を、さらに内容を充実させて放送します。
- がんばる人々、グループや企業など“佐賀の元気”を、金曜午後7時台の地域放送番組などで多角的に伝えていきます。さらに金曜午後8時台では、家族で楽しめる番組、環境問題をはじめ県民の関心に応える番組などの充実を図り、地域社会の発展と向上に貢献します。また、これらの地域番組で放送した内容については、積極的に全国発信し、佐賀の魅力を全国に紹介します。
- 平成23年の地上テレビ放送の完全デジタル移行に向けて、県内でのキャラバン中継、番組内のコーナーやスポット、ホームページなどを活用して、地上デジタル放送に対する理解を促進します。特に電波事情が複雑な佐賀の事情に則した情報提供をきめ細かく、わかりやすく行っていきます。
- 平成23年12月の佐賀放送局放送開始70周年に向けて、地域の姿を記録した貴重なアーカイブ映像の放送での活用や、地域の姿をいきいきと映し出す地域ドラマの制作に向けて準備を進めていきます。
- 佐賀県で唯一のプロスポーツチーム、サッカーJ2「サガン鳥栖」の試合の中継を引き続き行います。ニュース・情報番組の中でも、試合のポイントや課題についてきめ細かく伝えるとともに、選手の出演などを交え、チームの素顔に迫ります。
- パソコンや携帯端末などさまざまなメディアとの連携を推進します。連動型データ放送や携帯端末を活用した視聴者参加型サービスの実施など、地上デジタル放送の特性を生かしたサービスを行っていきます。

沖縄放送局

- 視聴者の皆様の関心に応える番組制作や報道をめざします。特に平日午後6時台のニュース番組や金曜午後7時台の情報番組については、地域の身近な情報にいっそう力を入れ、地域放送としての内容の充実と定着を進めます。また沖縄の文化や自然をめぐる話題を、ニュースや番組で積極的に全国に伝えていきます。
- 普天間基地の移設など、日本の安全保障や国際関係に直結する沖縄県の基地問題を、日米両国政府や関係機関の動向を含めて、ニュースや番組を通じてきめ細かく継続的に、全国にも伝えていきます。
- 沖縄市長選挙（任期満了日 平成22年5月11日）、第22回参議院議員通常選挙、沖縄県知事選挙を中心に、正確で速く、かつ背景を深く伝える選挙報道を実施します。
- 戦争体験者が少なくなる中で、沖縄戦の生存者の証言を積極的に取材し、埋もれた事実の発掘や戦争体験の継承に貢献する番組づくりを進めます。6月23日の沖縄県全戦没者追悼式は平成22年度も全国に中継し、沖縄戦の悲劇と、平和を願う県民の思いを国民に広く伝えます。
- 沖縄放送局が開発した地域台風進路予報画面などを駆使して、データ放送を含めて県民の要望に応える台風・災害報道を行います。ラジオでは、停電などの被害状況に適切に対応して機動的に放送していきます。
- 美しい海や貴重な動植物に恵まれた地域の特色を踏まえ、環境問題の取材に積極的に取り組み、全国放送のニュースや番組とも連携しながら、地域の環境保護を訴えていきます。
- 21年度、水曜午後9時台に不定期で放送していた沖縄放送局制作の全国放送ラジオ番組については、22年度は放送時間を毎月最終土曜日の午後10時台に定時で固定し、地域の話題にあふれる地元タレントのトークや沖縄音楽を、たっぷり全国の聴取者に届けます。
- 各地での多様な公開放送の実施や地域の事業への参加を通じて、県民各層に親しまれる放送局をめざします。また那覇市にある沖縄放送局放送会館では、番組制作や事業運営で視聴者が参加できるさまざまな工夫を凝らし、地域情報とエンターテインメントの拠点として存在感を高めます。

平成22年度 東北地方向け地域放送番組編集計画

《基本方針》

平成22年度、私たちは公共放送に求められている真のニーズを見つめなおし、地域に希望と活力を呼び起こす情報の発信と、サービスの提供に努めます。これまで取り組んできた、“改革と挑戦”をさらに勢いづける年としてまい進します。

今年度は、地上と衛星のテレビ放送の完全デジタル化へ向け重要な1年となります。東北地方でもデジタル化に全力で取り組みます。

東北地方は多くの課題を抱えています。停滞が続く地域経済、農林水産業の衰退、過疎化や格差拡大、あとを絶たない自殺。さらには、台風や地震などの自然災害の脅威にもさらされています。また、昨年夏の政権交代によって、私たちの暮らしにどのような影響がもたらされるのかも重要なテーマです。このような不安な時代にこそ、NHK東北6局は地域の諸課題に正面から向き合い、暮らしに直結した確かな情報を伝えていきます。また、この夏の第22回参議院議員通常選挙についても、ネットワークを生かした的確かつ迅速な報道に努め、視聴者の期待に応えます。

魅力的な伝統文化と自然に彩られた東北地方。穏やかで心豊かな営みは、私たちの誇りであり、日本社会が失いかけているものです。ふるさとの素晴らしさをていねいに掘り起こし、中でも、東北の豊潤な風土の恵みが産み出す“食”に関する番組を大きな柱として位置づけ、いっそう多彩に展開していきます。

いま、東北のスポーツがかつてない盛り上がりを見せています。昨シーズン創設5年目で初めてクライマックスシリーズに進んだプロ野球「東北楽天ゴールデンイーグルス」。東北勢が2チームに増え、活躍が期待される、サッカーJ1リーグ。スポーツには、地域を活気づけ一体感をもたらす大きな力があります。スポーツ中継をより充実させるとともに、“ご当地チーム”の情報も取り上げ、ふるさとを応援します。

放送とともに、パソコンや携帯端末などの媒体も積極的に活用し、視聴者との新たなつながりを目指します。また、公開収録やイベントを通じて多くの方々との交流を深めていきます。

《重点事項》

1. 公共放送としての使命 防災に向けた取り組み

視聴者の暮らしを守ることを第一に、今年度も東北6局は、正確・迅速な緊急報道・災害報道を目指します。

昨今大型化する台風をはじめ集中豪雨や雪害など、東北地方は繰り返し自然災害に見舞われてきました。緊急報道の備えを万全に、災害時には、柔軟な編成で情報を伝え、被害防止に努めます。

また、近い将来、宮城県沖地震が高い確率で再び発生するとされています。万が一の際に、一人でも多くの安全を守るため、年間を通じて防災関連のニュース企画や番組の放送に一段と力を入れ、「防災・減災意識」の向上につなげていきます。

2. 金曜夜間のいっそうの充実

“地域放送の重点ゾーン”と位置づけている金曜夜間は、午後7時台・8時台とも多くの視聴者から支持を集め、確かな実績を築いてきました。22年度も引き続き地域放送の充実に努め、視聴者からの幅広い期待にこたえていきます。

金曜午後7時30分からの番組では、東北が直面する課題に向き合い、視聴者の関心に的確にこたえていく番組を目指します。岩手・宮城内陸地震では改めて災害対策への課題が浮き彫りになりました。また、自殺者が相次ぐ状況も変わっていません。政権交代によって変わる東北経済、さらに医療、福祉、教育、スポーツなど、地域に密着したさまざまなテーマを多角的に取材し、東北の未来を展望します。

午後8時台では、昨年度「おいしい東北キャンペーン」を展開し、“食”を通してふるさとの素晴らしさを見つめる番組として大きな話題を呼びました。「おいしい東北」は、より見ごたえのある内容へ発展させていきます。もちろん、東北の豊かな自然や歴史、文化、そして東北で活躍する人たちの魅力を描くドキュメンタリーなども充実させていきます。

また、「冬・北国からのコンサート」や「東北民謡コンクール」など、公開イベントと連動した番組にも力を入れていきます。

3. ネットワークの真価、選挙報道

昨夏の総選挙の歴史的な政権交代は地域にどんな影響を与えているのか継続的に取材し、番組やニュース企画として詳しく伝えます。

新政権への国民の評価が具体的に示される第22回参議院議員通常選挙（任期満了 平成22年7月25日）では、有権者の判断のよりどころとなる情報を提供するとともに、的確かつ迅速な開票速報に努めます。

福島県知事選挙（任期満了 平成22年11月11日）ほか各地の首長選挙についても、ネットワークの強みを最大限に生かして取材を行うとともに、平成23年春の統一地方選挙へ向けて万全の体制づくりを進めます。

4. どう変わる 地域の暮らし

私たちの暮らしに直結する地域の課題を深く掘り下げます。

12月、東北新幹線は八戸～新青森間が開業し、東北地方すべての県庁所在地を新幹線が貫くこととなります。人や物の活発な動きは東北経済や産業に何をもたらすのか、さまざまな検証を続けます。

戸別所得補償制度の導入で、農業は転換期を迎えます。日本の食料供給に重要な役割を果たしている東北の農業が、新しい政策によってどのような影響を受けるのか分析します。

このほか、医療、福祉、教育といった問題も多角的な視点で分かりやすく伝えます。

5. 地域スポーツを応援

プロ野球「東北楽天ゴールデンイーグルス」は昨年初めてクライマックスシリーズに進出、今年には新監督を迎えいっそうの活躍が期待されます。サッカーでは、2010 FIFAワールドカップ南アフリカが開催される今シーズン、「モンテディオ山形」と「ベガルタ仙台」による“みちのくダービー”がJ1の舞台で実現します。そして秋田県から新チームが参入するプロバスケットボールbjリーグなど、関心が高いスポーツを中継やニュースの中で積極的に伝えていきます。

アマチュアスポーツについてもきめ細かく紹介し、地域スポーツの振興に寄与します。

6. 多彩な番組で描く“ふるさと東北”

各地の温泉・湯治場をめぐりながら、心温まる人情話や地域の絆を描く「ふだん着の温泉」は、これまで全国にむけ400か所以上の温泉地を紹介してきました。13年目を迎える今年度も、東北が中心となってふるさとの魅力を再発見する番組として発展・向上させていきます。

3年目となるラジオ「ぬくだまりの宿 みちのく亭」では、魅力的な人物をこれまで以上に発掘し、東北の素晴らしさを全国に発信していきます。さらに今年度からは、全国放送で伝えた番組を再構成・再編集して東北地方向けにたっぷり伝える新番組もスタートさせます。

また東北地方向けに放送している「民謡をどうぞ」は、今年放送開始2500回の節目を迎えます。特集番組も放送し、ふるさとの唄（うた）の素晴らしさを伝えます。

7. アナログ放送終了、デジタル化に向けて

平成23年（2011年）7月に迫ったアナログ放送の終了、テレビ放送の完全デジタル化へのスムーズな移行に向け周知活動を徹底します。

デジタル放送の特色や受信方法などを伝えるミニ番組を制作し、随時編成していきます。また、データ放送やマルチ編成などその特性をいかした番組を放送するほか、「視聴者参加型」番組にも挑戦することで、デジタル放送の魅力を伝えます。

さらに、公開番組やさまざまなイベントを通して、周知活動を行います。

8. 地域とのつながりを求めて

「地域を見つめ地域を考える、地域に密着したイベント」を展開します。また、放送との連動を視野に入れながら、誰もが参加可能な、地域を元気にするイベントを実施し、より多くの方々とふれあいます。

視聴者の意向が放送やイベントに的確に反映されるように、地域の人たちとの意見交換を積極的に行います。

《各局の重点事項》

仙台放送局

○ニュース・情報番組の刷新と充実

平日午後6時10分から放送しているニュース・情報番組は地域により親しまれる番組を目指します。全面的に刷新し、さらなる充実を図ります。

土曜午前7時台のニュース・情報番組でも内容・演出を一新します。地域のニュースを分かりやすく伝えるとともに、週末にふさわしい情報を届けます。

○迅速な災害報道と防災に向けた取り組み

近い将来、宮城県沖地震が極めて高い確率で発生するとされています。緊急・災害報道はNHKの使命です。万全の準備を整えるとともに、災害時には県民の生命・財産を守るため、確かな情報を伝えるほか、データ放送、インターネットも活用し、視聴者の信頼に応えます。また、防災への意識を高めるため、ニュース企画などをさらに強化します。

「宮城県沖地震」が発災した6月には、“ラジオ防災月間”として県内の各民放局と防災特集番組を共同制作するなど、災害時におけるラジオの役割を考える番組を集中的に放送します。このほか、コミュニティーFM局と一斉に電話でつながるネットワークを構築し、万が一の場合の災害放送に役立てます。

○注目の政権争い 万全の選挙報道

政権交代が県民にどんな影響を与えているのか、継続的に取材し詳しく伝えます。

また、この夏の参議院議院通常選挙および宮城県内の各首長選挙では、選挙戦の争点や動きを的確かつ迅速に報道し、公共放送としての視聴者の負託に応えます。

○宮城のスポーツ応援団

県民を勇気づけるスポーツを多彩な形で積極的に放送し、“宮城のスポーツ応援団”を目指します。

プロ野球「東北楽天ゴールデンイーグルス」の試合中継を拡充するほか、J1復帰を果たしたサッカー「ベガルタ仙台」、男子プロバスケットボールbjリーグ「仙台89ERS」など、関心が高いスポーツをさまざまな形で取り上げていきます。

さらに、アマチュアスポーツにも力を注ぎます。全国の舞台で活躍する選手たちはもちろん、地域で真剣に取り組む選手たちについてもきめ細かく紹介します。

○ラジオ番組の充実

金曜午後4時台のラジオ番組では、好評な「川柳・短歌」を充実させます。“楽天”“ベガルタ”を応援するコーナーを新設し、ファンの熱い期待に応えるほか、関連特集番組も随時放送し、ふるさとのチームの活躍をたっぷり伝えます。

FM放送午後6時からの音楽番組では、著名アーティストを招いての公開放送を行います。

○視聴者とのふれあいを目指して

東北ならではの大型企画イベント「冬・北国からのコンサート」や「東北民謡コンクール」のほか、村田町では「NHKのど自慢」を実施するなど、公開番組を展開し、地域の活性化や文化振興に寄与していきます。

若い家族層を対象としたイベントを増やすほか、20年を迎える「定禅寺ストリートジャズフェスティバル」と連携し、NHKとの接触機会を増やしていきます。

公開ホームページや携帯端末・パソコン向けに発信するメールマガジンをさらに楽しく読みやすいものとし、親しみある放送局を目指します。

アナログ放送の終了、テレビ放送の完全デジタル化へ向け、「2010 FIFA ワールドカップ南アフリカ」や、夏の恒例イベント「わくわくテレビまつり」など、公開番組やイベント会場での周知活動を積極的に展開します。

秋田放送局

○地域を見つめ 県民に“元気”を届ける放送を

景気や雇用の低迷、少子高齢化など、さまざまな問題に直面している秋田県。秋田放送局は、こうした課題を見つめ、県民とともに考えながら、放送を通じて秋田県の未来に向けた提言をしていきます。また、秋田が誇る自然や伝統文化、そして人材を広く紹介することで、県民に“元気”を届け、地域振興に貢献します。

○農業と地域経済の活性化のために

秋田県の基幹産業である農業は、極めて厳しい環境に置かれています。秋田の農業をいかに守り、はぐくんでいくのか、日本有数の穀倉地帯である大湯村などの取材を通じ、提言を目指します。さらに、独自の技術や発想で不況を乗り越えようとしている企業や、新たな起業を目指す人たちを取り上げ、地域経済の活性化に貢献します。

○自殺を防ぎ 少子高齢化に歯止めを

全国トップの自殺率、そして急速に進む少子高齢化。こうした深刻な問題の解決に向けて進められているさまざまな取り組みを紹介しながら、福祉や医療、教育など多角的な視点から、よりよく生きるための方向性を探ります。

○緊急報道の強化 正確で迅速な選挙報道

県民の生命や財産を守るため、災害時などの緊急報道をさらに強化し、公共放送としての使命を果たします。また、夏に予定される第22回参議院議員通常選挙をはじめ、能代市や三種町、八峰町、東成瀬村の市町村長選挙に万全の態勢で臨めるよう日ごろから準備を重ね、正確で迅速な報道を目指します。

○秋田の魅力を再発見し 全国に発信

県内各地で受け継がれてきた伝統文化、そして白神山地などをはじめとする豊かな自然を幅広く紹介。多くの県民にふるさと秋田のすばらしさを再発見してもらおうとともに、全国54局のNHKネットワークを活用し、その魅力を全国そして世界に向けて発信していきます。

○スポーツで元気と感動を

“スポーツ王国”として名をはせた秋田県。今年はプロバスケットボールチームが誕生するなど、スポーツをめぐる話題も豊富です。試合の中継だけでなく、ニュース番組のスポーツコーナーの充実や特集番組の放送などを通じて県民の関心に応え、元気と感動を届けます。

○地域放送サービスをさらに充実

秋田県向けの番組を内容、時間ともに充実し、より多くの県民に見て、聴いて、参加してもらえる放送を届けます。

午後6時台の番組は、県民生活にかかわるさまざまなテーマを取り上げます。また、キャスターが県内各地を訪ね放送する「キャラバン」も積極的に展開し、視聴者との交流を深めます。

午前11時台の情報番組は、引き続き秋田局オープンスタジオから公開生放送し、日々の暮らしに役立つ情報、秋田での生活を楽しく豊かにする情報を提供して、地域の元気と誇りをはぐくんでいきます。

金曜夜間の番組は、これまでよりも放送本数を増やし、地域放送サービスの充実をさらに推し進めます。秋田県が抱える課題の検証、時の人にスポットをあてたドキュメンタリー、関心の高いスポーツなど、ジャンルを問わず幅広い番組を放送します。

○すべての人にデジタルのサービスを

従来の放送だけでなく、データ放送やインターネット、携帯端末などさまざまなデジタルメディアでの情報提供を推進し、視聴者の利便性を高めます。また、来年に迫ったテレビ放送の完全デジタル化を前に、秋田県に暮らす人々が全員等しくテレビからの情報を受け取れるよう、民間放送局とも力を合わせてデジタル放送への理解と普及の促進に努めます。

○地域と連携 番組とイベントで元気を応援

秋田駅に隣接する放送会館の“地の利”を生かし、より多くの人に訪れてもらえるような公開番組や関連イベントを実施し、視聴者とNHKの距離をさらに縮めます。また、県内25の市町村や地域おこしに取り組む人々と連携して番組やイベントを展開し、地域とのつながりをより強固なものにしながら、県民とともに秋田の“元気”を作ります。

山形放送局・鶴岡支局

○「わたしたち、まるごと山形応援隊」を目指して

山形弁をはじめ地域の文化や産業などの「宝」を大切に、地域が元気になるような視点を大切にして放送します。特に山形県が10年をかけて作り、今年から本格的に栽培が始まるコメの新品種「つや姫」をめぐる動きなど農業を中心とした産業や暮らしを丹念に取材し、伝えていきます。

○迅速、的確な災害・緊急報道と選挙報道

県民の安心・安全のために事件・事故、地震・台風・大雪などの災害報道を迅速、的確に分かりやすく伝えます。また地震はないといわれた中で起こった「阪神・淡路大震災」から今年で15年になります。災害が少ないといわれる山形県でも災害はいつ起こるか分かりません。初動態勢の備えを怠らず、視聴者への注意喚起につながるよう独自に取材制作した企画を随時放送して、県民の防災意識向上に寄与します。

この夏予定されている第22回参議院議員通常選挙をはじめ首長選挙などの選挙報道については事前の準備から態勢を構築し、信頼される報道を行います。

○視聴者の期待と信頼に応えるニュース情報番組

午後6時台のニュース情報番組ではキャスターを固定化するなど変えるべき点は変え、視聴者に信頼される情報、暮らしに関わる情報をビビッドに伝えていきます。

○視聴者に密着した地域情報番組

午前11時台の情報番組については視聴者にも参加してもらうなどお昼前の時間に身近な情報とくつろぎをお届けします。

○地域を元気にする番組

山形弁だけで放送しているトーク番組は4年目に入り、多くの反響があります。これまで以上の充実を図り、テレビもしくはラジオで随時放送します。県内出身の多彩なゲストの出演に加え、公開放送も検討します。若者向けに高校生が参加してFM放送で放送している番組も続けていきます。

また若者に求心力のある番組の開発を目指します。

○地域スポーツを応援

サッカーJ1に残留を果たした「モンテディオ山形」については午後6時台のニュース情報番組で試合結果やサポーターの動向を毎週伝えるほか、試合の中継を増やします。特にJ1に復帰したベガルタ仙台との試合は「みちのくダービー」として注目度が高く、詳しくお伝えします。

そのほか高校野球や高校サッカーなど県民の関心が高いスポーツを中継し、ニュース情報番組でも地域スポーツを応援する企画やニュースを伝えていきます。

○ “3-Screens” 展開

若年層をはじめ幅広い視聴者がNHKのコンテンツに接触してもらえるようインターネットや携帯サイト、ワンセグデータ放送のサービス充実に努めます。

インターネットのホームページでは山形放送局独自のページを充実させます。番組の撮影や取材の裏側を紹介するページをいっそう充実し、地域の言葉を大切にする山形弁の辞書ホームページなど放送との連動を図りながらさらなる接触者率向上を目指します。

盛岡放送局

○岩手のチカラ 応援宣言！

平成22年度も引き続き「岩手のチカラ 応援宣言！」のスローガンを掲げ、岩手県を盛り上げ、よりいっそう地域の放送局としての存在感を示していきます。午前11時台の情報番組、午後6時台のニュース番組、金曜日午後7時台・8時台等の放送枠で県民に親しまれる番組を放送していきます。

○地域の人々・活動を応援します

地元・岩手に生きる人々や、地域の活動を積極的に取り上げていきます。伝統芸能、スポーツ、音楽、教育、医療など、さまざまな形で地域を盛り上げようと活躍している人々の姿や活動を取り上げ、多くの人に伝えていくことで、「地域の真の応援団」としての役割を果たします。

○岩手の文化や自然の魅力を発信します

岩手県には、全国に誇る伝統文化が数多くあります。今年発行100周年を迎える「遠野物語」に関するさまざまなキャンペーンの展開をはじめとして、多様な文化、話題を取り上げ、地元放送事業者や近隣局とも連携しその魅力をタイムリーに発信していきます。また、山と海がもたらす豊富な食物、効能豊富な温泉など、我々にその恵みをもたらしてくれる雄大な岩手の自然の魅力も積極的に取り上げていきます。

○地上デジタル放送の普及を推進します

平成23年(2011年)7月に迫った地上テレビ放送の完全デジタル化に向けて、さまざまな施策を実施します。デジタル放送のエリア拡大にあわせ、イベントや番組を効果的に展開し、地上デジタル放送の魅力とその機能の利便性を県民に広く伝えていきます。

○視聴者のニーズにこたえる放送を目指します

若者への接触率向上に資する番組作りと同時に、放送の技術を生かした、高齢者や障害者にやさしい番組作りも追求していきます。また、ケーブルテレビ事業者との密接な連携や、インターネットを活用した番組展開など、さまざまな形で視聴者から支持される放送を目指していきます。

○岩手が抱える課題を県民の皆さんとともに考えます

長引く不況は岩手の経済にも大きな影響を及ぼしています。また、医師不足や高い自殺率など、岩手が抱える課題は数多くあります。そうした課題を積極的に取り上げ、検証していくとともに、打開に向けた個人や団体の活動などを広く紹介し、県民とともにより良い解決策を考えていきます。

○正確で迅速な選挙報道を実施します

正確で迅速な選挙報道に努め、県民の期待と信頼にこたえていきます。第22回参議院議員通常選挙、県内各市町村の選挙に万全の準備を整えます。

○迅速、正確な災害・緊急報道で地域の安全を推進します

岩手県は、岩手県内陸部を震源とした「平成20年岩手・宮城内陸地震」、同じ年の7月に発生した岩手県沿岸北部を震源とする震度6弱の地震と、2度にわたって大きな地震を体験しました。盛岡放送局は、NHKのネットワークを最大限に生かしたきめ細かい災害情報を県民に提供してきました。これらの教訓を踏まえて、県民の生命・財産を守り被害を最小限にするため、迅速で正確な災害・緊急報道に努めていくと同時に、防災をテーマにした番組、企画を放送し、県民の防災意識を高めていきます。

福島放送局・郡山支局・いわき支局

○地域を元気にする、いきいきとした放送を目指します

身近なニュースや生活情報、課題、問題を分かりやすく、掘り下げて伝える一方、人びとを元気づけ、やすらぎを与えるドキュメンタリー、紀行などを充実させます。「福島“元気”応援団」をコンセプトにした公開番組では、地域に密着した内容で魅力的にお届けします。

○地域の人々の活動や営み、豊かな自然を全国発信します

人々の豊かな暮らしぶり、地道に活動するボランティア、ふるさとの美しい自然など、福島の良さをさまざまな角度から取り上げます。そして、広く関心を呼び情報や企画、番組を全国に向けて積極的に発信します。

○正確で迅速な緊急災害報道と選挙報道に努めます

安心・安全を念頭に正確で迅速な緊急災害報道に努めます。万が一の福島原発の事故にも備え、体制を整えて即応します。そして、第22回参議院議員通常選挙、福島県知事選挙には、万全の準備で臨みます。

○地域のスポーツを応援します

女子サッカーチーム「マリーゼ」は目標のリーグ3位を達成し、実力を上げています。男子では、社会人チーム「福島ユナイテッド」が天皇杯で大健闘しました。一方、福島県は陸上王国を目指し選手育成に力を入れています。注目のスポーツを中心に、試合を中継するなど地域スポーツの発展に貢献します。

○環境キャンペーンに取り組みます

独自のキャンペーン「NHKふくしま水風景フォトコンテスト」は、今年で8回目になります。受賞作品は巡回展をはじめ、テレビやホームページで紹介します。また、水や環境にかかわる課題や話題についても取り上げていきます。

○イベントを積極的に実施し、視聴者との絆を強めます

今年度、新会館への移転から5周年、そして開局70周年を迎えます。これに合わせて公開番組や独自イベントを実施し、視聴者とのふれあいを深めます。また、「放送体験クラブ」、朗読会などを通じて、NHKへの理解を促進します。

○“ふくしまアーカイブス”を充実させます

番組やニュース映像のデータベース化を進めながら、アーカイブスを活用した多彩な番組を放送します。特に開局70周年を記念して、セレクションを集中編成し、また好評を得た番組を一挙に上映するイベントを実施します。

青森放送局・弘前支局・八戸支局

○「放送局のちから」で地域サービス充実

青森放送局は平成22年度も引き続き弘前、八戸の両支局と協力して「放送局のちから」を発揮し、地域サービスを充実させます。

“視聴者の視点”を基本に、地域経済の悪化、少子高齢化、自治体の財政難など生活に直結する地元の諸課題に向き合い、その解決策を考えて、地域を元気にするニュースや番組を放送します。

また、農業や水産業など一次産業を中心に日本の“食”を支える青森県内の取り組みを積極的に取り上げ応援します。

○信頼に応える報道

視聴者の信頼をいっそう確かなものとするよう、正確・迅速な報道に向けた態勢を整え、災害報道や緊急報道に備えます。災害時などには暮らしを守る生活情報の提供にも努めます。

六ヶ所村の核燃料再処理施設や青森・弘前の駅前再開発の行方など、視聴者の関心が高いテーマについては、より深く分かりやすく伝えます。

第22回参議院議員通常選挙や弘前市（平成22年4月11日投票）・五所川原市（平成22年6月13日投票）・黒石市（平成22年6月20日投票）の各市長選挙などの選挙報道にも万全の態勢で臨みます。

○東北新幹線全線開業

平成22年12月に八戸～新青森間が開通し、東北新幹線は28年目にして全線が開業します。新青森と東京が3時間余りで直接結ばれ、青森県は高速交通体系の新たな時代を迎えます。

新幹線全線開業で青森県はどう変わっていくのか。“開業効果”を地域の活性化に結びつけるにはどうすればよいのか。八戸～新青森開通後に地元の第三セクターが事業を引き継ぐ並行在来線の問題なども含めニュースや番組で多角的に伝えます。

○地域の魅力を再発見

多くの人びとに青森県を訪れてもらうことで地域の活性化に寄与できる放送を目指します。

津軽三味線の高橋竹山生誕100年なども視野に、ねぶた祭りや八戸えんぶり、味噌貝焼きやせんべい汁など、県内の伝統文化と多彩な食文化を全国に紹介します。

独自の文化を支える県内各地の方言についても、毎月放送する方言を使った川柳の番組などをはじめ、その魅力を広く伝えていきます。

○地上デジタル放送の普及

休日・夜間の当番医案内など暮らしに役立つ情報や青森放送局制作の番組に関する情報を中心に、自治体などの公的機関とも連携してデータ放送の内容を充実させます。

マルチ編成を活用してスポーツ大会の中継や青森県関連の全国放送番組を県域向けにも独自に編成し、多様化する視聴者の要望に応えつつ地上デジタル放送の普及に努めます。

○「もっと身近な」放送局

「つながる場」と「3-Screens」の2つの局内プロジェクトを中核に局内各部署が連携して視聴者との関係を強化します。

幅広い年齢層に向けたさまざまなイベントなどの機会を通じて視聴者と積極的に交流し、地域での存在感の向上を目指します。

県民の関心が高いスポーツなどでインターネットや携帯端末向けの情報提供を加速し、若者の接触率向上にもつながる多様な取り組みを展開します。

平成22年度 北海道地方向け地域放送番組編集計画

《基本方針》

グローバル経済の拡大、地球温暖化、少子高齢化など、国内外で起きている大きな変化のうねりは、北海道の地域社会にも大きな影響を与えています。激動の時代に、北海道のNHKは、地域に貢献し、人々の暮らしを守り、支える役割を担い、公共放送としての使命を全力で果たすとともに、地域とともに歩む、身近な放送局として視聴者の期待に応えます。

北海道のNHKは、“北海道はひとつ”の基本方針のもと、経営資源を効率的、計画的に配分し、7つの放送局が緊密に連携することで、きめ細かく、質の高い放送サービスを北海道全体で行っています。

平成22年度は、接触者率向上を図るために、大幅な番組改定を行います。夕方のニュース・情報番組は、内容を一新し、道内各地のニュースを、より早く、わかりやすく伝えます。さらに、高齢者から若者まで、幅広い層の視聴者獲得に向け、ターゲットを明確にした番組を開発するとともに、NHKの全国のネットワークを活用し、他の地域の放送局と協力した番組作りに、これまで以上に力を入れます。番組の編成は、機動的に行い、北海道の視聴者の期待に応えます。北海道の魅力を全道・全国に向け発信する「まるごと体感！北海道」キャンペーンは継続し、通年で展開します。

また、インターネットが急速に普及する中、ホームページを刷新するなど、3-Screens 展開を拡充し、より多くの人々がNHKに接する機会を増やし、NHKの存在感をよりいっそう高めていきます。

平成22年度の北海道地方向け地域放送番組の編集にあたっては、こうした考えのもと、北海道の視聴者の公共放送に対する期待に応えていきます。

《重点事項》

1. ニュース・報道番組の充実

- 大きな事件、事故、災害など緊急報道の際、迅速にニュースを伝える体制を、全道で拡充し、視聴者の信頼に応えます。道内7つの放送局のネットワークを活用し地域のニュースや話題を、さらにきめ細かくわかりやすく伝えるため、平日午後6時台のニュース・情報番組を刷新します。また、北方領土問題や、農業、医療、高齢化など、北海道が抱える課題に正面から向き合い、金曜午後7時台の報道番組で、深く掘り下げて伝えていきます。
- 第22回参議院議員通常選挙（任期満了日 平成22年7月25日）にあたっては、開票速報など関連放送に万全を期し、視聴者の信頼に応えます。また、道内各地の首長選挙についても、正確で公平な選挙報道を行います。
- 生命・財産に関わる自然災害や、事件・事故の緊急報道に際しては、安全・安心情報を、インターネットや携帯端末なども活用した“3-Screens”展開で、“いつでも、どこでも”確実に提供し、地域のライフラインとしての役割を果たします。

2. 視聴者層拡大をめざす戦略的な編成

- 幅広い視聴者のニーズに応えるため、金曜夜間の番組群の内容と編成を大幅に見直します。午後7時台の報道番組に続いて、午後8時台には、人気ミュージシャンが道内各地の魅力を伝える紀行番組や、エンターテインメント性の高いインターローカル特集など、家族で楽しめる番組を重点的に編成します。午後10時台では、視聴者の反響が大きかった番組などをアンコール放送します。深夜0時台は、若者ゾーンと位置づけ、北海道発の音楽情報番組や、ライブ番組などを通年で編成します。

- 土曜午前9時台から11時台を第2の地域ゾーンと位置づけ、多彩な番組を編成します。金曜夜間の番組の再放送のほか、視聴者と触れ合う番組や、釣りをテーマした趣味・実用番組を配置し、北海道の視聴者の期待に応えます。
- 平日午前に、双方向で道内各地のさまざまな話題を伝える、身近な公開型情報番組を編成し、開かれた放送局として地域での存在感を高めていきます。

3. 北海道の魅力を全道、全国に発信

- 特色ある道内各地の自然や文化、暮らしを紹介するため、“まるごと体感！北海道”の取り組みを継続し、道内各地域の番組を重点的に放送する月間を設定し、地域の話題をニュースや番組で、集中的に全道・全国に発信します。
- 雄大な自然を誇る知床は、“知床世界自然遺産登録5周年”、“知床旅情誕生50周年”を迎えます。北海道のNHKは“知床キャンペーン”を展開し、北海道が誇る大自然・知床の魅力を発信していきます。

4. 北海道の文化・歴史の記録、継承

- 戦後65年を迎える今年、高齢化している戦争体験者の証言を記録し、貴重な戦時下の映像とともに伝える番組を放送し、戦争体験と平和への思いを、若い世代に語り継いでいきます。また、戦後の開拓に携わった北海道の人々の証言を伝える番組などを通して、北海道の文化、歴史をあらためて見つめます。

5. デジタルサービスの強化

- パソコンや携帯端末の特性を生かしたサービスを強化します。地域のニュースや気象情報、交通情報を充実するとともに、地域放送番組に連動した情報を積極的に発信し、満足度向上に努めます。また、双方向性など、デジタルの特性を生かした地域放送番組を開発し、視聴者がNHKに接する機会を増やします。

6. 地域に根ざしたスポーツ情報の発信

- 「北海道日本ハムファイターズ」や「コンサドーレ札幌」など、関心の高いプロスポーツについて、ニュースや中継で積極的に伝えていきます。また、アイスホッケーやスキージャンプなど、北海道ならではのウインタースポーツの情報も伝えていきます。

《各局の重点事項》

札幌放送局

- 道央圏は北海道の政治・経済などの中心的な役割を担っています。小樽・千歳・岩見沢・滝川の4つの報道室とのネットワークを生かして、道央圏の課題、行事、市民活動など、さまざまなニュース・情報をきめ細かく伝えていきます。
- 若者を対象とした新しい公開番組の開発や若者向けイベントの番組化などを通じて、若い世代との接触を増やしていきます。
- 平成22年中に、道央圏のほとんどの地域で送信設備のデジタル化が完了します。デジタル放送の特性を生かし、JRや飛行機案内、交通情報や除雪情報など、道央圏の生活に密着した情報を、データ放送を通じて提供し、地上デジタル放送の普及に努めます。

函館放送局

- 新幹線が平成22年末に新青森駅まで乗り入れ、5年後には新函館駅が開業する予定です。来るべき新幹線時代に向けての町づくりや観光活性化など、新たな動きや課題をきめ細かく伝えます。また、道南地方の豊かな自然や、地域で元気に活動する人々にもスポットを当て、地域に根ざした放送局の力をアピールします。
- 自然災害や大事故を想定した訓練の実施や、取材マニュアル・災害対策マニュアルの刷新を行い、緊急初動体制を一層強化します。また、第22回参議院議員通常選挙や政権交代による地方への影響などについて引き続き取材を行い、正確で迅速な情報提供で視聴者の信頼に応えます。
- ラジオ番組の会館ハートプラザでの公開放送を継続し、さらに、道南各地域での“出前公開放送”も積極的に行い、接触者率の向上に寄与するとともに、地上デジタル放送の普及活動にも役立てます。

旭川放送局

- “まるごと体感！北海道”のコンセプトにのっとり、道北各地の雄大な自然や風土・人々の暮らしなど多彩な魅力を、番組やニュース、7月・12月の“旭川月間”を通して積極的に全道・全国に発信していきます。特に、旭山動物園や富良野など道北観光の取り組みを継続的に取材します。
- 道北47市町村が抱える雇用や医療、財政難にあえぐ自治体など地域のさまざまな課題についても、番組やニュースを通して全道・全国に発信していきます。また、山岳遭難などの緊急報道、第22回参議院議員通常選挙の報道と高校野球道北地区大会中継、旭川市長選挙（任期満了日 平成22年11月16日）など、視聴者のニーズに的確に応えるニュースと番組を放送します。
- 番組やイベントを通じて積極的に、平成23年7月の地上デジタル放送完全移行に向けた情報を発信します。また、地上デジタル放送の普及促進に向けて、道北の自然や暮らしを題材に、高画質・高音質のハイビジョン番組を制作します。

帯広放送局

- 政権交代によって、十勝の基幹産業である農業や地域経済、地方自治などが、どのような影響を受け、変わろうとしているのか、しっかりと見つめていきます。平成22年度は全国向け・道内向けの多様な番組を集中して放送する“十勝月間”を2回に増やし、地域の魅力を広くアピールします。
- 豊かな自然に恵まれた十勝の魅力を全道・全国に発信するとともに、午前11時台の情報番組のさらなる充実を図ります。地域のイベントや暮らしに役立つ情報をきめ細かく伝えながら、よりライブ感のある番組をめざします。
- 地震や津波など、大規模な災害から生命・財産を守るため、緊急報道や防災の意識を高める報道に力を注ぎます。第22回参議院議員通常選挙では、正確で迅速な報道で視聴者の信頼に応えます。

釧路放送局

- 平成21年秋に開始した“北方領土プロジェクト”では、元島民の証言を記録する“わたしの証言”を継続して取材・放送するほか、65回目の節目となる8月の終戦の日に向けてさまざまな番組・企画・イベントを実施し、領土問題について深く掘り下げます。医療・教育・格差など山積する地域の課題にも真正面から向き合い、災害報道や第22回参議院議員通常選挙をはじめとした選挙報道でも地域の期待に応えます。
- “まるごと体感！北海道”キャンペーンに合わせ、9月に“釧路・根室月間”を実施し、雄大な自然や地域に根ざす人々の姿などを全道・全国に集中発信します。“知床世界自然遺産登録5周年”や“知床旅情誕生50周年”に合わせて“知床キャンペーン”を展開し、知床の魅力を広く発信します。
- 平成23年7月に迫った地上デジタル放送への完全移行に向けて、地域にきめ細かい情報を伝えます。地元市町村の情報を集中発信する“地域キャラバン”や、地域の人気スポーツ・アイスホッケーの生中継、昼前情報番組での身近な地域情報の発信などを通して、釧路・根室を元気にする取り組みもさらに進めます。

北見放送局

- オホーツク管内の身近な放送局として、地域の“魅力や元気”を伝える企画を継続して取り組み、地域貢献していきます。特に“知床世界自然遺産登録5周年”や“知床旅情誕生50周年”に合わせ、札幌放送局や釧路放送局と連携し、知床の魅力を全国にアピールする番組・ニュースを展開するなど全道・全国に積極的に発信します。
- 政権交代に伴う政策転換の地域への効果・影響をはじめ、北見市役所と北見赤十字病院の建て替え問題、医師不足問題、低迷の続く地域経済など、地域の抱える課題に取り組みます。災害・緊急報道に万全を期すほか、第22回参議院議員通常選挙では、正確で迅速な報道に全力を挙げ、視聴者の信頼に応えます。
- 地上デジタル放送の受信エリアは、オホーツク地域全域に拡大します。平成23年7月に迫った地上デジタル放送への完全移行に向けて、普段の放送はもとより、公開番組やイベントを展開し、視聴者とのふれあいを深めて、地上デジタル放送の普及促進に努めます。

室蘭放送局

- 地域の元気を伝える“まるごと体感！北海道”キャンペーンを引き続き展開し、4月の“室蘭月間”を中心に、胆振・日高地方の多彩な魅力を、全道・全国へ発信します。放送を通して、政権交代後の地域経済の課題にも正面から向き合い、地域再生・活性化の鍵を探ります。
- 番組やイベントなどを通じて視聴者とのふれあいを深めるとともに、スポットやミニ番組などを活用した視聴者の放送参加の機会拡大にも取り組み、地域に信頼され、親しまれる放送局を目指します。こうした活動を通じて、地上デジタル放送の普及促進と受信料の公平負担の徹底を図ります。
- 有珠山噴火から10年の節目の年にあわせて、有珠山・樽前山と2つの火山を抱える管内の緊急報道体制の強化に努めるとともに、防災意識を高める報道にも力を注ぎます。また、第22回参議院議員通常選挙など選挙報道に全力で取り組みます。

平成22年度 四国地方向け地域放送番組編集計画

《基本方針》

四国のNHKは、視聴者のみなさんとの“きずな”をさらに深め、地域の人々から信頼され、親しまれる放送局を目指します。

昨年秋から連続テレビ小説「ウェルかめ」、スペシャルドラマ「坂の上の雲」、そして大河ドラマ「龍馬伝」と四国ゆかりの主人公たちが活躍する全国ドラマが次々と放送され、四国は全国から注目されています。

これを契機に、四国の魅力を発信する「ドラマチック！四国」キャンペーンに取り組んできました。今年度は、その取り組みをふるさと四国で活躍する人たちや四国の文化や自然の素晴らしさにも広げ、四国の魅力を全国に発信していきます。特に、金曜夜8時からの四国向け地域番組では、四国の人たちに元気と感動を伝える多彩な番組を放送し、地域を活気づける“応援歌”にします。

また、地域は景気の低迷によって厳しい状況に立たされ、さまざまな暮らしの問題に直面しています。今年度は、地域の課題を多角的な視点から検証し、解決に向けての道筋を地域のみなさんと一緒に考えていきます。

今年夏に行われる第22回参議院議員通常選挙（任期満了 平成22年7月25日）には万全の体制で臨み、選挙の争点や結果を速やかにしっかり伝えます。また緊急報道や災害報道に全力を尽くします。

さらにインターネットや携帯端末、データ放送など多様なメディアを通じて、幅広い世代の視聴者のみなさんにNHKの情報をお届けします。

来年7月に迫ったテレビ放送の完全デジタル化が滞りなく進むように、デジタル放送の魅力や受信方法を、分かりやすく丁寧にお知らせします。

視聴者のみなさんの期待に応え、地域との“きずな”を深めながら、NHKへの接触者率を高めていきます。

《重点事項》

1. 地域に元気と感動をもたらす金曜夜8時

金曜夜8時は、四国の人たちに“元気”と“感動”を伝える番組を放送します。大河ドラマ「龍馬伝」やスペシャルドラマ「坂の上の雲」に寄せられている地域のみなさんの期待と関心に応えるため、坂本龍馬や秋山兄弟、正岡子規らの魅力や生きざまを描く新たな番組を制作します。

ふるさと四国を愛し、夢や目標に向かって生きる人たちや、素晴らしい伝統の技を受け継ぐ人たちの番組を制作します。また、四国で輝いている人たちを紹介する新しいスタイルの情報番組も開発します。さらに、情熱的な「よさこい祭り」や「阿波おどり」など多彩なテーマを取り上げ、四国の魅力を再発見します。

2. 地域の課題をともに考える報道・情報番組

四国は地域経済の活性化や雇用の確保、医療・福祉の充実や少子高齢化対策など多くの課題があります。また、政権交代後の公共事業見直しや地方主権などの課題にどう取り組んでいくかも問われています。これらの課題を解決する道筋を視聴者のみなさんとともに考えていきます。地域のニュース情報番組をはじめ、金曜夜の報道番組でそれぞれの課題を継続的に取り上げ、先進的な取り組みも紹介します。また、視聴者のみなさんからの意見をもとに解決策を探る「四国選択会議」は内容を充実させ、地上デジタル放送のアンケート機能を利用して多くのみなさんの意見を番組に反映させます。

3. 地域の人々の生命と財産を守る報道体制の強化

取材用ヘリコプターが今年3月に高松空港に配備されます。取材の機動力を高め、緊急報道の体制を強化します。また5月から大雨や洪水などの気象警報・注意報の発表が市町村単位に細分化されるため、きめ細かく防災情報を伝えていきます。地震・台風などの自然災害や事件・事故など、安心・安全のための情報を速やかに分かりやすく提供します。

4. 正確で速やかな選挙放送

第22回参議院議員通常選挙や首長選挙では、有権者のみなさんの判断に必要な情報を的確にお伝えし、結果は正確かつ速やかに報道します。

5. “いつでも どこでも NHK”

今年度は幅広い世代の視聴者のみなさんがNHKに接触していただく機会を積極的に増やします。地域に出向いて公開収録する番組や視聴者参加の番組でみなさんとふれあう機会を増やします。また、インターネットや携帯端末などのさまざまなメディアで番組情報や地域スポーツ情報、災害・選挙の情報、イベント情報などを提供し、子どもからお年寄りまで幅広い世代のみなさんの関心に応じていきます。

6. テレビのデジタル化の普及促進の積極的活動

テレビのアナログ放送が完全に終了するまであと1年あまりとなりました。デジタル放送の受信について、視聴者のみなさんの疑問を解消するために、お知らせや情報番組、イベントなど様々な機会を通して理解促進に努めます。

《各局の重点事項》

松山放送局

- NHK松山放送局は来年3月9日に開局70周年を迎えます。スペシャルドラマ「坂の上の雲」も今年から来年にかけて物語の山場を迎えます。松山放送局では、主人公の秋山兄弟や正岡子規、夏目漱石などゆかりある人々を新しい視点で描く特集番組を放送してきましたが、今年度も引き続き、金曜夜8時台で放送します。さらに、これまで制作した関連番組を松山放送局でみなさんが自由に視聴できる“坂の上の雲への道”ライブラリー計画を進めます。明治の若者たちの躍動を伝える地域特集番組を収めた公開ライブラリーを通して地元のみなさんと“きずな”を深めていきます。
- 愛媛県では山鳥坂ダムの建設見直しや高速道路料金の無料化、また経済の低迷と雇用問題、高齢化と医療・介護問題など課題が山積しています。夕方6時台のニュース番組では、こうした課題を継続的に分かりやすく伝え、地域再生への取り組みも取り上げます。また“愛媛のきょう”にこだわり、ニュースを速く、背景まで深く掘り下げ、視聴者のみなさんの信頼に応えます。
- 若い世代のみなさんが見ていただける番組づくりを目指します。衛星第2テレビで放送している「俳句王国」は、若い世代が気軽に俳句を楽しめるように携帯端末からも作品を募集します。また初心者のみなさんにも俳句や句会の基礎が学べる番組にします。
さらに、夕方のニュース情報番組では、県内の学校を巡って校歌やクラブ・サークル活動を紹介する企画など、地域の未来を支える若者たちの姿を積極的に取り上げます。
- 台風や局地的豪雨、南海地震などに備えて緊急報道体制を強化します。また、防災・減災に向けた各地の取り組みも積極的に紹介し、暮らしの安心と安全を守るために全力を尽くします。さらに、今年度は第22回参議院議員通常選挙とともに愛媛県知事選挙（任期満了 平成23年1月27日）が行われます。政見・経歴放送や開票速報などの選挙放送に万全の体制で臨むとともに、有権者のみなさんに選挙の争点や課題を分かりやすく伝えます。
- 放送以外のさまざまなメディアを使い、いつでもどこでも視聴者のみなさんがNHKの情報を得られる機会を増やします。インターネットではスペシャルドラマ「坂の上の雲」のご当地情報や地元のスポーツ・チームを応援する掲示板などの内容を充実させます。また、携帯端末やデータ放送では高校野球の試合速報などを充実させ、地域のみなさんの期待に応えていきます。

- 来年7月24日までに完了するテレビ放送の完全デジタル化を前に、デジタル放送の魅力や受信方法を分かりやすく解説したスポットを、年間を通してシリーズ放送します。地域の状況に応じたきめ細かい受信対策もお知らせしていきます。

高知放送局

- 平成22年の大河ドラマ「龍馬伝」の放送は、「土佐・龍馬であい博」の開催など、高知県にとっては県勢浮揚の切り札になっており、大きな期待が寄せられています。ドラマの放送を通じた地域活性化と、より幅広い接触者の獲得を目指し、年間を通じて「龍馬伝」に関連したさまざまな放送やイベントを実施するキャンペーン「発進、龍馬伝」を展開します。ドラマの放送にあわせた企画のほか、坂本龍馬に関する歴史を掘り起こし、龍馬とそのゆかりの地域や人々の魅力を紹介する番組の放送やイベントを随時実施するだけでなく、地域活性化に向けた県内の動きも取材・検証していきます。
- 第22回参議院議員通常選挙にあたっては、政権交代を受けて地域にどのような変化が生じているかを検証するとともに、公平公正な立場で選挙の争点を明確にしていき、地域の視聴者の信頼に応えます。
- 毎年のように猛威にさらされている台風や大雨については、視聴者に正確で迅速な情報を伝えるため、緊急報道体制を万全なものとしします。これまでの災害報道の蓄積を生かして県民に役立つ情報を伝えるとともに、各種の伝送網を活用して県内各地の状況をいち早く伝えます。さらに、今世紀前半にも発生すると予想されている南海地震への備えとして、地震とそれに伴う津波の知識や防災を呼びかける放送を繰り返していきます。
- これまでの枠組みや形式にとらわれず、多様で柔軟な地域放送のあり方を追求します。県民の関心の高い課題や問題だけでなく、地域で起きている知られざる事象とその影響を明らかにしたり、その時その場所で必要とされる県内外の情報を地域に向けて伝えます。また、高知ならではの文化や魅力ある人物を紹介する企画や地域の課題を掘り下げる番組などを制作し、積極的に全国に向けても発信します。
- “いつでも、どこでも、もっと身近にNHK”を実現するデジタルコンテンツの展開を推進します。恒例のスポーツイベントや、災害・選挙に関する情報のほか、地域放送の補完・広報についても、ホームページ・携帯サイト・データ放送・ワンセグデータ放送において、それぞれのメディアの特性を生かし、継続的にサービスを実施します。平成22年の大河ドラマ「龍馬伝」に関しても、ホームページを中心に地域ならではの情報を提供するほか、視聴者との結びつきを深めるコンテンツを企画・立案していきます。
- 1年後に迫ったテレビ放送の完全デジタル化を見据え、地域放送番組やイベントを通じて、地上と衛星のデジタル放送の普及に向けた取り組みを加速させます。

徳島放送局

- 地方経済の厳しい状況が続く中、地域の再生をめざして、昨年度に続き「がんばれ！徳島」キャンペーンを行い、“徳島を元気にする拠点”を目指します。地域経済の課題を伝え、復活の道をさぐるとともに、徳島の自然や文化の豊かさを再発見し、発信していきます。そのために、夕方6時台のニュース番組を全面的にリニューアルし、いっそう強化。また、ホームページの充実も図っていきます。
- 「がんばれ！徳島」キャンペーンの柱のひとつが、地域産業の応援です。徳島県にとって、平成22年度の大きなテーマは“LED”と“糖尿病のメディカル拠点作り”です。環境重視の中、世界的にLEDの時代が訪れようとしています。LEDの世界的な動きも取材しながら、LED先進地域・徳島の情報を発信していきます。また、徳島県は世界から糖尿病の患者が治療のために集まる医療先端地域を県内に形成しようとしています。そうした取り組みを、糖尿病死亡率全国ワースト1位脱却の方策とともに伝えていきます。
- 「がんばれ！徳島」キャンペーンでは、雇用・財政、少子・高齢化や過疎化など地域の課題にも、正面から向き合います。第一次産業の産地情報や企業情報の発信にも取り組みます。
また、朝の連続テレビ小説「ウェルかめ」のヒロインがふるさと徳島の良さを再発見したように、徳島の魅力をさまざまなシリーズ企画や特集番組で発信してきます。
- 緊急災害報道に力を入れ、公共放送の使命を果たします。近い将来の発災が懸念される東南海・南海地震。徳島局は、地域の防災拠点として、日ごろから防災情報の発信を行います。地震に限らず、気象災害等の発生時には、正確な情報をいち早く提供するとともに、ホームページやデータ放送などで、きめ細かな情報を伝えていきます。
- 夏に予定されている第22回参議院議員通常選挙など選挙放送では、万全の準備、体制で臨み、有権者の判断のよりどころとなる情報を公正かつ、正確・迅速に伝えます。
- 若い視聴者に、親しんでいただき、見ていただけるNHKを目指します。ニュース企画や番組において、若者の関心のあるテーマや、若者の活動をこれまで以上に放送で取り上げ、次代を担う若者を応援します。
- 来年7月のテレビ放送の完全デジタル化に向けて、放送とイベントを通じて視聴者の理解促進を図ります。

高松放送局

- 地元大手のマンション業者が経営破綻するなど、経済の落ち込みが続き、また、政権交代にともなう仕組みの変化もあり、地域社会でもさまざまな課題が浮上しています。こうした世の中の動きに敏感に対応し、県民の暮らしに密接に関わる問題を深く掘り下げて取材し、ニュースや地域報道番組などで、継続的な取材や検証を行い、地域の人々とともに解決策を考えていきます。
- 「瀬戸内国際芸術祭」が開催されるのに合わせ、瀬戸内の島々の魅力を伝える特集番組を放送するとともに、水産資源の減少や過疎化問題など、この地域が抱える課題を掘り下げ、年間を通して瀬戸内の情報を地域と全国に発信します。また、地域の視聴者に愛され支持されている、著名な芸能人が香川県内の各地を訪ね、地域の魅力を引き出す金曜夜8時台の紀行番組は、内容をさらに充実し、継続して放送します。若い世代をターゲットにした番組も引き続き展開するなど、バラエティー豊かな内容で幅広い視聴者の要望に応えていきます。
- 今年は第22回参議院議員通常選挙が行われます。また、香川県知事選挙（任期満了日 平成22年9月4日）や県内8市町の首長選挙が行われる予定です。選挙報道にあたっては、万全の準備を行い、有権者の選択に役立つ正確・迅速な放送に努めます。
- 県民の生命・財産を守るために防災意識の啓発に努め、高松空港に配備された取材用ヘリコプターを有効に活用するなど、緊急報道の体制をより強化して災害への備えを充実させます。台風や地震などの自然災害の発生時には、被害の拡大を防ぎ、住民の生命・財産を守るために、きめの細かい放送を行います。
- 番組との連動を軸に、インターネット、携帯端末、データ放送など、さまざまなメディアを使う“3-Screens”の展開を強化します。また、行政と連携して台風や大雨による災害発生時には「避難情報」や「河川水位情報」などの防災情報をきめ細かくデータ放送で提供するシステムを構築し、幅広い視聴者層がいつでも、どこでも、見たいとき、知りたいときにNHKに接することができる環境を整えます。
- 幅広い世代の人々にとって身近で親しみのある放送局を目指し、地域文化を取り上げるイベント、福祉の向上に貢献するイベント、子育て世代や若い世代を対象としたイベントなどを企画実施し、地域活性化と文化発信に貢献します。
- 1年後に迫った地上と衛星のテレビ放送の完全デジタル化に向けて、各セクションと連携してアナログ放送終了を告知するミニ番組やスポットを制作・放送し、完全デジタル化へ円滑に移行できるよう視聴者の理解促進に努めます。